

○議長 發議ナキヲ以テ本案ヲ可トスル者ヲ起立セシム

起立者十八人

○議長 多數ヲ以テ本案ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第八條 賣捌所ハ訴訟用印紙賣捌所ト大書シ官ノ焼印アル看板ヲ

掲クヘキ事

○議長 發議ナキヲ以テ本案ヲ可トスル者ヲ起立セシム

起立者十八人

○議長 多數ヲ以テ本案ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第九條 訴訟用印紙用方左ノ通

第一項 金穀之類

金拾圓
米五石
雜穀拾石

未滿

金壹錢

金拾圓以上
米五石以上
雜穀拾石以上

未滿

金二錢

金百圓以上
米五拾石以上
雜穀百石以上

未滿

金三錢

金五百圓以上千圓
米二百五十石以上五百石
雜穀五百石以上千石
未滿

金四錢

金千圓
米五百石
雜穀千石

以上

金五錢

第二項

人事之類 但家督相續養子雇人等ノ
トニ關スル訴訟ヲ云フ

金一錢五厘

第三項

土地並建物之類 但地所境界田畑建
家等ノ訴訟ヲ云フ

金一錢五厘

第四項

雜事之類 但以上各種ヲ除ク外
一切ノ訴訟ヲ云フ

金一錢

第五項

文通之類 但町村役場及原
被告人ノ文通

金一錢

金五厘

○十四番 田中不
二管

本條ノ未滿ノ字ヲ以下ノ字ニ改メント欲ス何ント
ナレハ未滿ハ滿ニ對スルノ稱ナリ本條ノ末款ニ以上ノ字ヲ填セリ
然レハ之ヲ以下ト改メ以上ノ字ニ對スヘキナリ且ツ第二項以下ノ
分注ニ但ノ字アリ從來慣用ノ文例ニハ本文意義ノ盡サル者アル
トキハ但ノ字ヲ加ヘテ以テ本文ノ餘意ヲ發揮ス本條第二項以下ノ
如キハ是ト異ナリ殆ント注解ニ過キス但ノ字モ亦之ヲ删除セン
ト欲スルナリ

○十五番 柳原
前光 贊成

○議長 十四番ノ修正説ニ賛成者アルヲ以テ問題トナシ十四番ノ説
ヲ可トズル者ヲ起立セシム

○議長 多數ヲ以テ十四番ノ修正ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田 秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第十條 訴訟用印紙ノ種類定價左ノ通

- 青色印紙 金五厘
- 代赭色印紙 金一錢
- 青銅色印紙 金五錢
- 淺紫色印紙 金十錢
- 桔梗色印紙 金二十錢

右五種ノ印紙ハ各項ニ通シテ之ヲ用ユヘシ例ヘハ一錢ノ印紙一枚
ヲ貼用スヘキ者ハ五厘印紙二枚ヲ貼シ又ハ五錢ノ印紙三枚ヲ貼用
ス可キ者ハ拾錢印紙一枚ト五錢ノ印紙一枚ヲ貼スヘキカ如シ其他
類推スヘシ

○十五番 柳原 前光 本條印紙ノ各色ナルハ其鑒別ニ便センカ爲メナルヘ

シ然ルトキハ青色ト青銅色トハ其色相似タルヲ以テ混雜シ易キノ

恐アラシク設トヒ着實老成ノ者ト雖モ其急遽忽卒ノ際ニ方テハ或ハ

錯誤ヲ免レサルヘシ仍テ青銅色ヲ黃色ニ換エハ婦女兒童ト雖モ之

ヲ鑒別シ易キノ便アラシク

○二十番 津田 賛成

○議長 十五番ノ修正説ニ賛成者アルヲ以テ問題トナシ十五番ノ説

ヲ可トスル者ヲ起立セシム

○二十起立者十人

○議長 多數ヲ以テ十五番ノ修正ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田 秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第十一條 裁許狀對紙用方左之通

第一項 金穀之類

金拾圓
米五石
雜穀拾石

未滿

金二錢

金拾圓以上
米五石以上
雜穀拾石以上

未滿

金三錢

金百圓以上
米五拾石以上
雜穀百石以上

未滿

金四錢

金五百圓以上
米二百五拾石以上
雜穀五百石以上

未滿

金五錢

金千圓
米五百石
雜穀千石

以上

金六錢

第二項 人事之類

金三錢五厘

第三項 土地並建物之類

金三錢

第四項 雜事之類

金二錢五厘

第五項

文通之類

裁判所ヨリ原告人呼出狀等

金五厘

○十四番 田中不

第九條ハ既ニ未滿ノ字ヲ以下ノ字ニ改ムルニ決議

シタレハ本條モ亦々未滿ノ字ヲ以下ノ字ニ改メ彼此同一ノ体裁ニ

ナランコトヲ欲ス

○十五番

柳原 前光 賛成

○議長 十四番ノ修正說ニ賛成者アルヲ以テ問題トナシ十四番ノ說

ヲ可トスル者ヲ起立セシム

○起立者十六人

○議長 多數ヲ以テ十四番ノ修正ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官

戸田 秋成 左ノ議案ヲ朗讀ス

○第十二條 裁許狀罫紙ノ種類定價左之通

○十五番

罫紙
黑色罫紙 金六錢

罫紙
綠色罫紙 金五錢

罫紙
橙黃色罫紙 金四錢

罫紙
青色罫紙 金三錢五厘

罫紙
紫色罫紙 金三錢

罫紙
紅色罫紙 金二錢五厘

黄色罽紙 金二錢

赭色罽紙 金五厘

○十番中島 信行 本條ハ第十條ノ文躰ト反對セリ十條ハ價ノ低キモノヨリ次第順序セリ該條既ニ決議シタレハ本條モ亦タ宜ク其例ニ倣ヒ順次位置ヲ轉換スヘシ然ラサレハ文例同一ナラス

○十五番柳原 前光 賛成

○議長 十番ノ修正説ニ賛成者アルヲ以テ問題トナシ十番ノ説ヲ可トスル者ヲ起立セシム

起立者十八人

○議長 多數ヲ以テ十番ノ修正ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官戸田 秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第十三條 裁許狀ハ其類ニ照シ此罽紙ヲ用ユヘキ事

○議長 發議ナキヲ以テ本案ヲ可トスル者ヲ起立セシム
起立者十八人

○議長 多數ヲ以テ本案ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官戸田 秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第十四條 訴訟中裁判所ヨリ原被告人等呼出ニ用フル罽紙員數ノ定價及原被告人ヘ下付スル裁許狀罽紙員數ノ定價ハ曲者ヨリ三日内ニ裁判廳ヘ辨納スヘキ事

○議長 發議ナキヲ以テ本案ヲ可トスル者ヲ起立セシム
起立者十八人

○議長 多數ヲ以テ本案ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第十五條 官許賣捌所ノ外ニテ訴訟用印紙ヲ販賣スル者ハ其品取

上ケ販賣シタル印紙代ノ百倍又其情ヲ知テ之ヲ買フ者ハ其品取

○上ケ買受ケタル印紙代ノ五拾倍過料可申付事

○十四番 田中不 本條ヲ修正セント欲ス官許賣捌所ノ外ニテ訴訟用

印紙ヲ販賣スル者ハ其品取上ケ販賣シタル印紙代ノ百倍又其情ヲ

知テ之ヲ買フ者ハ云々トアリ又ノ字ヲ以テ上ヲ斷シ下ヲ起シ以テ

文章ヲ轉換シ而テ其結尾ニ過料ノ字ヲ填ス全ク百倍ノ下ニ過料ノ

字ヲ省畧セシモノナルヘシ然レトモ全國ノ人民悉ク皆ナ書ヲ讀ミ

字ヲ知リ事理ヲ領解セシモノ、ミナレハ本條ノ如キモ敢テ支障ナ

カルヘシト雖モ粗ホ事理ヲ領解スル者殆ント千中一二ニ過サルヘ

シ苟モ法律トナシ全國ニ公布スル者ハ其冗繁ヲ厭ハス諄々訓告シ

兒童走卒モ之ヲ領解シ易カラシムルヲ善トス此主義ヲ以テ本條ヲ

修正シ印紙代ノ四字ヲ刪除シ百倍ノ下ニノ過料可申附「ノ六字ヲ

加エ又買受タル印紙代ノ五十倍過料可申附事ノ行ニ於テモ印紙

代ノ四字ヲ刪除シ五十倍ノ下ニ「ノ字ヲ加ヘ以テ文章ヲ接續セ

シムヘシ

○廿一番 山田顯義 賛成

○議長 十四番ノ修正説ニ賛成者アルヲ以テ問題トナシ十四番ノ説

ヲ可トスル者ヲ起立セシム

起立者九人

○議長 少數ヲ以テ十四番ノ説ヲ取消シ本案ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第十六條 印紙罨紙ヲ贋造スル者又ハ贋造セシ品ト知テ之ヲ賣買スル者ハ都テ其品取上ケ九拾圓以内ノ過料可申付事

○議長 發議ナキヲ以テ本案ヲ可トスル者ヲ起立セシム

○廿一起立者十八人

○議長 多數ヲ以テ本案ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第十七條 前條ニ掲ル犯人ヲ見認メ訴出ル者ハ事實取糺シ相違ナキニ於テハ賞トシテ其過料ノ半高下ケ與フヘキ事

○十四番 田中不
二宮 本條ヲ刪除ス可シ隱匿奸詐ヲ摘發スルハ警察官吏ノ職掌ナリ苟モ其職ニアラスシテ人ノ隱私ヲ告訐摘發シ以テ賞ヲ

希フノ心ヲ懷カシムルハ道德ノ許サ、ル所ナリ從來ノ諸規則ヲ閱スルニ本條ノ如キモノ往々掲載スル者有リト雖モ冀クハ漸次ニ之ヲ刪去シ其痕跡ヲ社會ニ止メス掃蕩シ盡スヲ欲スルノミ

○廿二番 細川潤
次郎 賛成

○議長 十四番ノ修正說ニ賛成者アルヲ以テ問題トナス

○十八番 河野
敏鎌 十四番修正ノ精神ハ道德上ニ偏倚シタルモノト認ム本官カ所見ト異ナリ夫レ政治ノ要點ハ偏ニ道德上ニノミ傾斜ス可ラス是レ其仁惠以テ奸惡ヲ懲誡スルニ足ラサレハナリ十四番ノ說ニ隱匿奸詐ヲ摘發スルハ警察官吏ノ職務ナリト言フハ其官ニ在テハ隱私ヲ摘發スルハ可ナリ他人ニ在テハ不可ナリト言フモノ、如シ試ニ思ヘ警察官吏ナル者ハ人民自ラ安寧ヲ保護スル能ハサルヲ

以テ此官ヲ設ケ之レニ依頼シ其安寧ヲ保タント欲スルモノナリ然レハ其官ニ在テハ可ナリ他人ニシテハ不可ナリト云フ理アラシヤ且ツ警察ノ法未タ全ク周到完備ニ至ラス是以テ大奸巨猾モ往々天網ヲ脱漏スルモノアルニ非スヤ仍テ本條ヲ明掲スレハ鄰里鄉黨モ尙ホ其隱私ヲ摘發セラレンコトヲ恐レ居常戒懼ノ念慮ヲ懷カシム是其奸詐ヲ未然ニ制遏スルモノナリ本條刪除ス可ラス

○廿三番 補田英世

本官ハ原案本案トモニ不可トスル所ナレハ開會以來緘默坐視セリ然レトモ本條存廢ノ議論ニ至ツテハ己ムヲ得ス一言ヲ費サ、ルヲ得ス佛國ノ法律ノ宇内ニ冠絶シタルハ世人ノ知ル所ナリ而テ其治罪法ニ人ノ奸惡ヲ知テ之ヲ告發セサルヲ許サストセリ亞細亞諸邦ノ如キハ縱令ヒ人ノ奸惡ヲ覺知スト雖モ之ヲ默々看

過スルヲ以テ厚德ノ事トナス者ハ道德ヲ尊尙スルノ俗ニ由ルト謂フト雖モ畢竟卑屈ニシテ自奮ノ心乏シキニ由テ然ルナリ本條決シテ刪除ス可ラス

○廿二番 細川潤次郎

本官カ賛成シタル所以ハ道德上如何ニ關係スルニ非ス設使本條ヲ掲載スルモ其效用社會ノ便益トナスニ足ラサルヲ信スレハナリ賣藥規則ニ本條ノ如キ一項ヲ掲ケタルハ其有害有毒ノ物品アツテ人ノ生命ニ關係スル所大ナレハナリ本條ノ印紙罨紙ハ則チ訴訟ニ關シテ他ニ用ル所ナシ若シ其贋造品ヲ貼用シ欺詐ヲ逞セント欲スル者アルモ焉ソ能ク炯眼炬ノ如キ法官ヲ欺キ得ンヤ其欺詐立口ニ暴露ス可シ然レハ故ヲニ本條ヲ揭示スルモ其效用ナキノミナラス殆ント蛇ニ足ヲ添ユル如クナラン

○十八番 河野敏録 廿二番ハ人情ヲ視察スルノ何ソ濶畧輕易ナルヤ政府

ニ於テ數年間心ヲ碎キ思ヲ凝シ巧緻精密ヲ極盡シタル紙幣ノ如キモ猶其贋作往々流傳スル者アリ是ヲ以テ之ヲ觀レハ印紙罅紙ヲ贋造スル如キハ易々ノ業タルノミ苟モ法律トナシ之ヲ決行スルニ至テハ毫末モ之ニ觸犯セサラシメテ後チ初メテ法立チ令行ルト謂フ可シ故ニ若シ此法ヲ犯セハ此ノ如キ罰ヲ加ヘ毫モ假貸セスト明々瞭々ニ記載シ以テ侮法ノ弊ト奸詐ノ萌ト之ヲ未然ニ懲艾スルヲ可トス

○十五番 柳原前光 本官モ刪除スルヲ可ナリトス然レトモ他ノ刪除説トハ稍其論旨ヲ異ニセリ本條ノ起頭ニ前條ト稱スルハ必ス第十六條ヲ指點シタルモノナラン果シテ然ラハ之ヲ掲載スルハ緊要ノ事項

トセス何ントナレハ苟モ一點ハ良心ヲ具ヘタルモノハ敢テ人ノ隱私ヲ摘發告訐スルヲ好マス是レ其天賦ノ良心存スルヲ以テ然ルナリ今其良心ニ反シタルモノヲ掲ケ利ヲ以テ之ヲ誘致シ徒ラニ陰險ノ心ヲ養成スルハ不可ナリ之ヲ刪除スルニ如ス

○廿三番 楠田英世 法律ハ政府ト人民トノ間ニ締結シタル契約ナレハ其契約ヲ確乎タラシムル爲メニハ本條ノ如キ者ヲ掲ケサレハ不可ナリ歐米諸國ノ如ク刑法治罪法モ完全整備シタル國ニ於テハ本條ノ如キハ固ヨリ無用ニ屬ス可ト雖モ未タ其地位ニ至ラサレハ姑ラク之ヲ存スルヲ可トス

○十五番 柳原前光 廿三番ハ歐米ノ法ヲ引証スト雖モ本官ハ之レヲ領解セス若シ本條ヲ刪除ス可カラサル要點アリトスレハ此他百般ノ規

則皆此ノ如キ條款ヲ置カサル可カラス然ルヲ特ニ訴訟用印紙罨紙規則ノミニ之ヲ掲ケントスルハ何ソヤ殆ント解ス可カラサルナリ

○十八番 河野敏録

或ル議官ハ特ニ訴訟用印紙罨紙規則ニノミ本條ヲ揭示スルハ不可ナリト言ト雖モ決シテ否ラス此他ノ諸規則モ亦タ然リ既ニ證券印紙規則及ヒ賣藥規則等ニモ都テ罰則ヲ掲ケサルモノナシ苟モ法律トナシ之ヲ天下ニ公布スルニ方テハ其犯則者ヲ防遏スルノ法ヲ設ケサル可ラス本條ヲ存シテ社會ノ安寧ニ關スレハ一筆之ヲ塗抹シ去ル可シト雖モ之ヲ存シテ其利アルモ其害ヲ見ス然レハ則チ本條ハ刪ル可ラス

○十五番 柳原前光

本條ヲ廢セント欲スル極點ヲ論スレハ一言以テ之ヲ蔽フ曰ク酷也ト若シ前條ヲ保護スルヲ要點トスルトキハ此他ニ猶

ホ掲クヘキ條項蓋シ少ナカラサラン且ツ贋造スル者ヲ罰スル僅々九十圓ヲ極度トセリ然ラハ之ヲ掲クルモ告發スル者ナカラシ贋造ヲ預防スルハ第十六條ノ明文ニテ至レリ盡セリトス

○十番 中島信行

本案ヲ可ナリトス或ル議官ノ説ニ人ノ隱惡ヲ告訐摘發スルノ風行ル、トキハ其毒ヲ社會ニ流シ其道德ヲ害スル者大ナラント道理ナキノ説ニ非スト雖モ唯其一方ニノミ偏倚スルトキハ政畧ノ活機ヲ失フニ至ラン又或ル議官ノ歐米ノ治罪法ヲ引証トシテ論セシ如ク法律ノ最上點ノ地位ニ至ルハ固ヨリ佇望スル所ト雖モ奈何セン本邦未タ其地位ニ至ラス是ヲ以テ近來ノ公布ニ係ル証券印紙海關稅ノ諸規則ノ如キ其種類ニ依リ密賣贋造偽詐ノ患アル者ハ本條ノ如キ條項ヲ設ケ以テ其詐偽ヲ防遏スルノ具トナサ、ルモ

ノナシ然レハ本條ヲ存スルヲ可トス

○九番 大給 恒 本條ハ存スルヲ可トス其道德ヲ害スルノ説ハ同意ナリ

ト雖モ法律ヲ議スルニ道德ノ如何ノミニ偏倚シテ論ス可ラス本條ヲ存スレハ人々警惕ノ念慮ヲ生シ其奸慝ヲ未萌ニ消スルノ益アラシ他諸規則モ亦皆此ノ如キ者アレハ敢テ之レヲ酷ナリト謂フ可ラス然ラハ之ヲ存スルヲ可トス

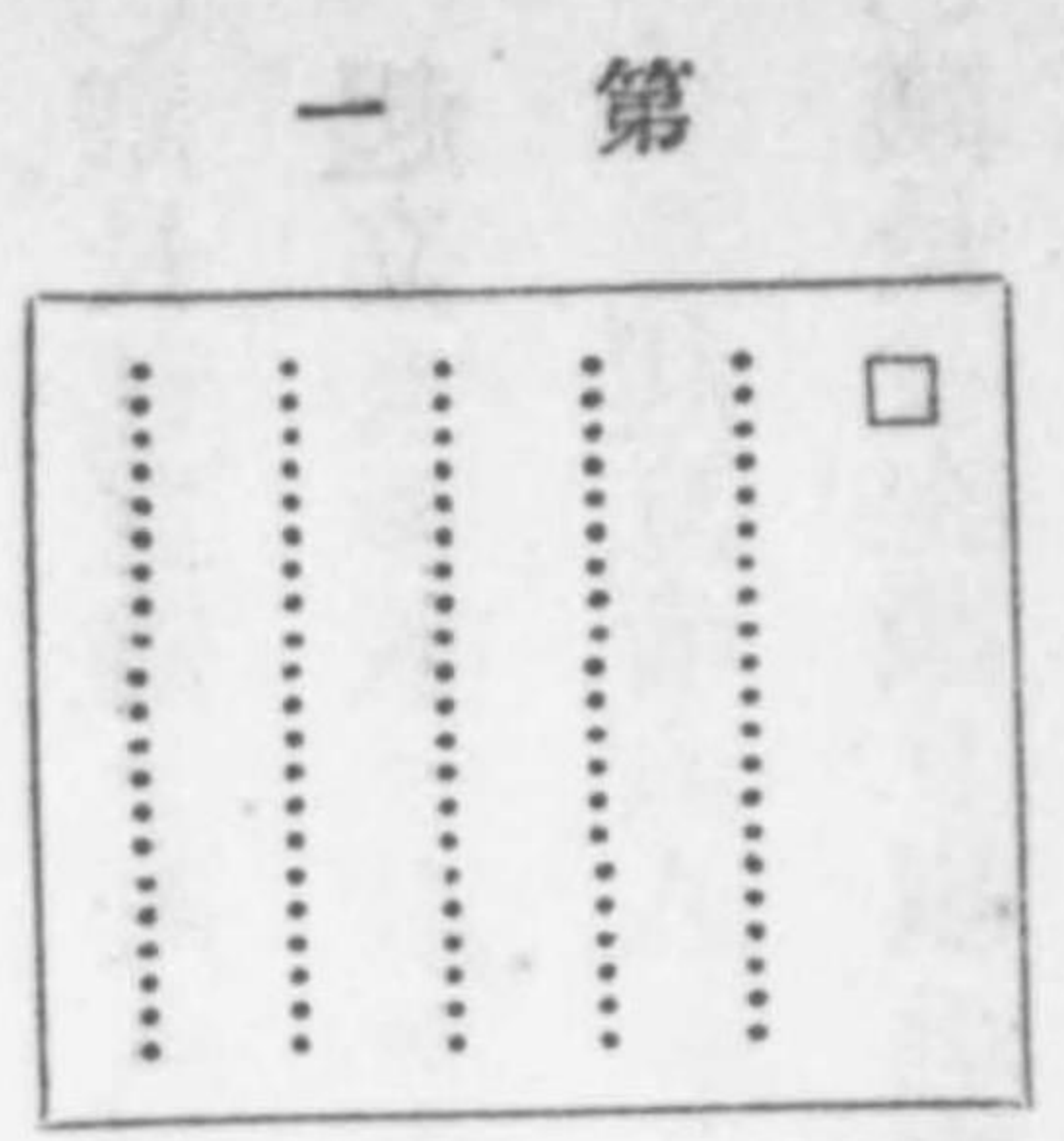
○議長 討論ノ既ニ盡キタルヲ認メ十四番ノ修正説ヲ可トスル者ヲ起立セシム

起立者六人

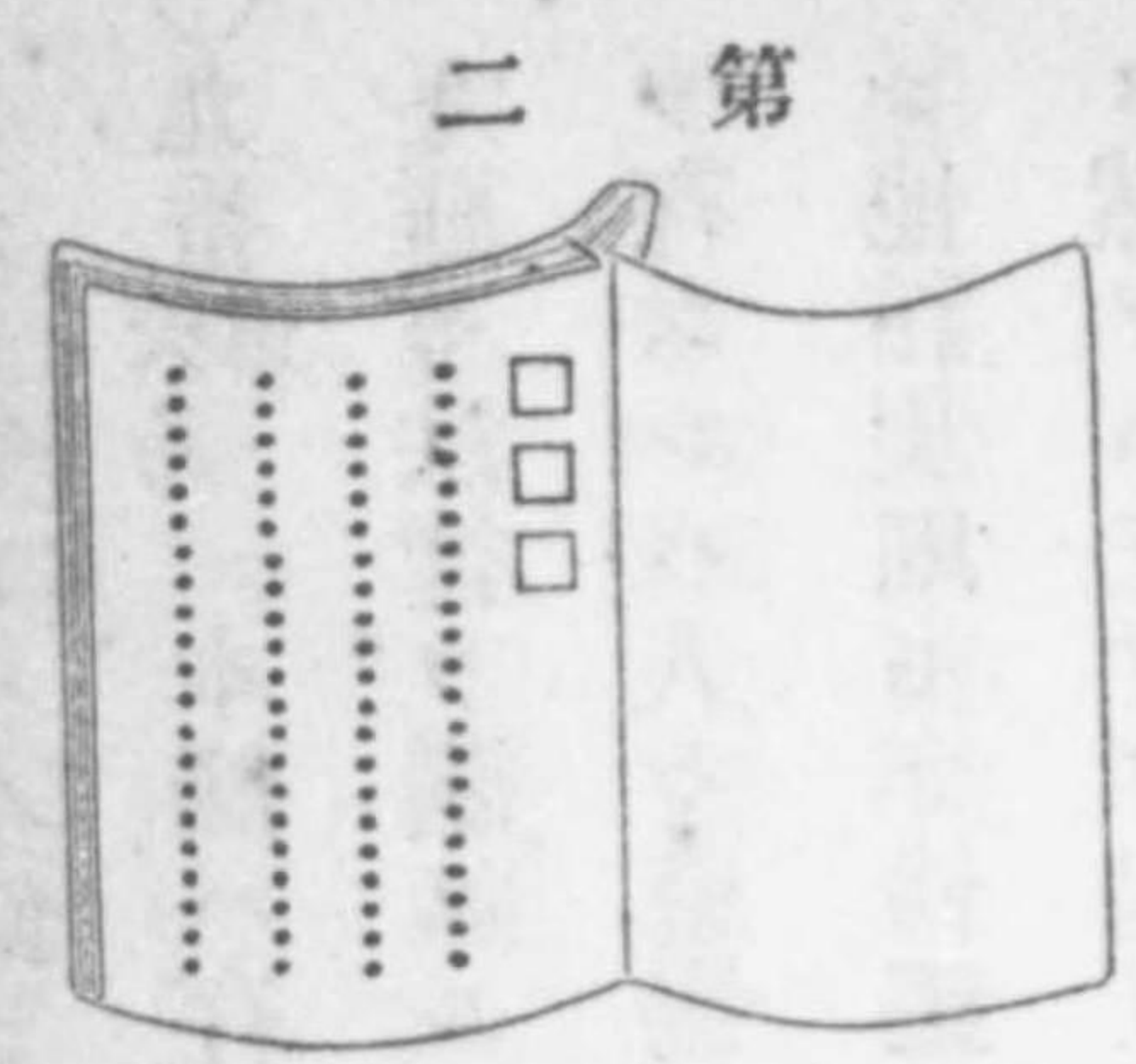
○議長 少數ヲ以テ十四番ノ説ヲ取消シ本案ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田 秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

印紙貼用雛形



一葉ニシテ冊ヲ爲サ、ル者ハ雛形ノ如ク相當ノ印紙ヲ紙首ニ貼シ實印ヲ以テ消印スヘシ但一葉十六行一行十五字以上二十字以下タルヘシ下同シ



冊ヲ爲セシ者ハ雛形ノ如ク冊中ノ總紙數ニ相當スル丈ケノ印紙ヲ冊中ノ初葉ニ貼附シ實印ヲ以テ消印ス可シ

○十五番 柳原前光 本條修正ス可シ第一條ノ第二項ハ既ニ修正ノ說ヲ可認セラレタリ然ラハ本條第一圖解ノ但以下ノ二十五字ハ殆ント蛇足ニ屬ス之ヲ删除スルニ如ス

○十八番 河野敏錄 賛成

○議長 十五番ノ修正說ニ賛成者アルヲ以テ問題トナシ十五番ノ說ヲ可トスル者ヲ起立セシム

起立者十七人

○議長 多數ヲ以テ十五番ノ說ニ決シ第二讀會ハ全ク畢タル旨ヲ告

○外番 古澤滋 該規則改正ハ本年三月中ノ上申ニ係レリ且ツ明十二年一月ヨリ本案ヲ實施セントス然レハ其數月ノ前ニ之ヲ發令セサ

ルヲ得ヌ又改正印紙製造ニモ許多ノ日月ヲ消靡ス可シ是等ノ事情アレハ本日引續キ第三讀會ヲ開カレンコトヲ請求ス

○議長 委員ヨリ本日引續キ第三讀會ヲ開カンコトヲ請求スルヲ以テ本日之ヲ開クヲ可ナリト認ムル者ヲ起立セシム

起立者十人

○議長 多數ヲ以テ引續キ第三讀會ヲ開クニ決シ時既ニ正午ナルヲ以テ午後之ヲ開ク旨ヲ告ケ解散セシム

正午第十二時十二分閉場

元老院會議筆記明治十一年十月四日

○第一百十一號議案 訴訟用印紙并裁許狀野紙規則 第三讀會

議長 有栖川 熾仁

出席議員

- | | | |
|-----|-----|----|
| 一番 | 黑田 | 清綱 |
| 二番 | 秋月 | 種樹 |
| 三番 | 水本 | 成美 |
| 六番 | 岩下 | 方平 |
| 九番 | 大給 | 恒 |
| 十番 | 中島 | 信行 |
| 十二番 | 大久保 | 一翁 |

- 十三番 東久世通禧
- 十四番 田中不二啓
- 十五番 柳原 前光
- 十六番 河田 景與
- 十八番 河野 敏鎌
- 十九番 伊集院兼寛
- 二十番 津田 出
- 廿一番 山田 顯義
- 廿二番 細川潤次郎
- 廿三番 楠田 英世
- 廿五番 穴戸 璣

廿七番 津田 眞道

内閣委員番外一番 太政官權大書記官古澤 滋

午後第一時四十分開場

○議長 第百十一號議案ノ第三讀會ヲ開クニツキ例ニ遵ヒ發議ス可

シト演フ

○書記官戸田秋成 左ノ議案ヲ朗讀ス

布告按

明治八年十二月 第百九拾六號布告訴訟用罫紙規則ヲ廢シ訴訟用印紙
 並裁許狀罫紙規則更ニ別冊ノ通被定來明治十二年一月一日ヨリ施
 行候條此旨布告候事

但從來ノ訴訟用罫紙存在ノ分ハ取交相用候儀不苦候事

○議長 發議ナキヲ認メ確定ノ決ヲ取ル可シト告ケ本案ヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全員悉ク起立シタルヲ以テ本案ニ確定シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田 秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

訴訟用印紙并裁許狀罫紙規則

第一條 凡訴訟ヲ生シ公裁ヲ仰カントスレハ此規則第九條中第一項第二項第三項第四項ニ照準シ原被告人共裁判官ニ差出ス訴答及ヒ證書ノ寫等一切ノ書面ハ其類ノ印紙ヲ貼附スヘキ事
但

第一項 訴答等ノ表紙書式等ハ訴答文例ノ通タルヘキ事

第二項 書方ハ壹葉二十行ノ事

第三項 印紙ハ葉數ニ應シ之ヲ貼附スヘキ事

○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可トスル者ヲ起立セシム
全員悉起立

○議長 全員悉ク起立シタルヲ以テ本條ニ確定シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田 秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第二條 訴答文例中原告人へ取ヘキ被告人住所書付並此書付ヲ得ル爲メ町役場ノ交通ハ第九條中第五項ノ印紙ヲ貼附スヘキ事

○議長 發議ナキヲ認メ本條ヲ可トスル者ヲ起立セシム
起立者十八人

○議長 多數ヲ以テ本條ニ確定シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第三條 訴訟中其事ニ關シ證據ニ爲サントスル原被告人互ノ文通

モ第五項ノ印紙ヲ貼附スヘシ

○十番 中島信行 本案各條悉ク皆ナ事ノ字ヲ以テ結尾トナス唯本條ノミ

事ノ字ヲ省ケリ其事理ニ大小輕重ノ別アルニ非ス然レハ文章ノ體

裁モ同一ナラサレハ不可ナリ仍テ本條ノ結尾モ亦タ事ノ字ヲ補フ

ヲ可トス

○十四番 田中不 贊成

○九番 大給恒 贊成

○廿一番 山田顯義 贊成

○廿二番 細川潤次郎 贊成

○十五番 柳原前光 贊成

○議長 十番ノ發議ニ贊成者アルヲ以テ問題トナシ十番ノ說ヲ可トスル者ヲ起立セシム

起立者十七人

○議長 多數ヲ以テ十番ノ說ニ確定シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第四條 人民ヨリ官府ニ關涉スル訴訟ニ付官府ヨリ裁判官ニ出ス書面モ同シク此規則ニ照シ印紙ヲ貼附スヘキ事

○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全員悉ク起立シタルヲ以テ本條ニ確定シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第五條 以上掲ル印紙ヲ貼附セサル書面ハ裁判官受理セサル事

○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全員悉ク起立シタルヲ以テ本條ニ確定シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第六條 裁判所ヨリ原被告人或ハ引合人等呼出狀ハ都テ第十一條

第五項ノ罫紙ヲ用ユヘキ事

○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全員悉ク起立シタルヲ以テ本條ニ確定シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第七條 訴訟印紙ハ買求差支無之様各府縣管下適宜ノ場所ヘ賣捌

所相設クヘキ事

○廿二番 細川潤次郎 本條或ハ脱字アラン本案ノ表題及ヒ其他ノ條項ニ

ハ皆ナ訴訟用印紙云ヤト書シ單ニ訴訟印紙ト書スルノ例ナシ本條

モ亦タ用ノ字ヲ加フルヲ可トス

○十八番 河野敏鎌 賛成

○九番 大給恒 賛成

○十四番 田中不 賛成

○十三番 東久世通禮 賛成

○十五番 柳原前光 賛成

○議長 廿二番ノ發議ニ賛成者アルヲ以テ問題トナシ廿二番ノ説ヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全員悉ク起立シタルヲ以テ本條ニ確定シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第八條 賣捌所ハ訴訟用印紙賣捌所ト大書シ官ノ焼印アル看板ヲ

掲クヘキ事

○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全員悉ク起立シタルヲ以テ本條ニ確定シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第九條 訴訟用印紙用方左ノ通

第一項 金穀之類

金拾圓
米五百石
雜穀拾石

以下

金壹錢

金拾圓以上五百圓
米五百石以上五百石
雜穀拾石以上百石

以下

金貳錢

金五百圓以上五百圓
米五百石以上五百石
雜穀百石以上五百石

以下

金三錢

金五百圓以上千圓
米貳百五十石以上五百石
雜穀五百石以上千石

以下

金四錢

金千圓
米五百石
雜穀千石

以上

金五錢

第二項 人事之類 家督相續養子雇人等ノ 金壹錢五厘

第三項 土地并建物之類 地所境界田畑建家等ノ訴訟ヲ云フ 金壹錢五厘

第四項 雜事之類 以上各種ヲ除ノ外一切ノ訴訟ヲ云フ 金壹錢

第五項 交通之類 町村役場及原告人ノ交通 金五厘

○廿一番 山田顯義 第二讀會ニ於テ本條ノ未滿ノ字ヲ以下ノ字ニ改ムルニ決セリ本官猶ホ之ヲ熟思スルニ以下ト稱スルトキハ圓位石位ハ上下ニ通スルノ疑アリ我邦慣用既ニ久シ未タ其一定ノ例ナシト雖モ成文律トナシ之ヲ公布スルニハ一目瞭然領解シ易キヲ善トス故ニ原案ノ未滿ノ字ニ復サンコトヲ欲ス

○十八番 河野敏録 賛成

○十三番 東久世通禱 賛成

○廿二番 細川潤次郎 賛成

○二番 秋月種樹 賛成

○廿三番 楠田英世 賛成

○十番 中島信行 賛成

○議長 廿一番ノ說ニ賛成者アルヲ以テ問題トナシ廿一番ノ說ヲ可トスル者ヲ起立セシム

起立者十六人

○議長 多數ヲ以テ廿一番ノ說ニ確定シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第十條 訴訟用印紙ノ種類定價左ノ通

青色印紙 金五厘

代赭色印紙 金壹錢

黄色印紙 金五錢

淺紫色印紙 金拾錢

桔梗色印紙 金二拾錢

右五種ノ印紙ハ各項ニ通シテ之ヲ用ユヘシ例ヘハ一錢ノ印紙一枚ヲ貼用スヘキ者ハ五厘印紙二枚ヲ貼シ又ハ五錢ノ印紙三枚ヲ貼用ス可キ者ハ拾錢印紙一枚ト五錢ノ印紙一枚ヲ貼スヘキカ如シ其他類推スヘシ

○廿一番 山田顯義 原案ニハ代價五拾錢ノ印紙アリ本案ニ之レヲ删除セリ想フニ數千金ノ貸借ノ訴訟ニ其性質ニ由リ或ハ數十葉ノ冊子ヲ

爲スニ至ルモ計リ知ル可ラス此ノトキニ方リ五錢ノ印紙ヲ貼附スルトセハ初葉ノ滿面殆ント空隙ナキニ至ラン豈ニ不便ナラスヤ原案ノ如ク五拾錢印紙ヲ發行スルヲ可トス

○十八番 河野敏録 賛成

○廿二番 細川潤次郎 賛成

○十三番 東久世通禎 賛成

○廿五番 穴戸璣 賛成

○十番 中島信行 本官之ヲ賛成セント欲スト雖モ廿一番ハ五拾錢ノ印紙ヲ發行ス可シト言テ未タ其設色ノ如何ヲ聞カス想フニ原案紅色ナレハ廿一番ノ所見モ亦タ紅色ナラン果シテ臆測ノ如クナラハ之ヲ賛成ス可シ

○廿一番山田顯義 前陳誤テ紅色ノ語ヲ脱漏セリ設色固ヨリ十番ノ所見ノ如シ

○議長 廿一番ノ説ニ賛成者アルヲ以テ問題トナシ廿一番ノ説ヲ可トスル者ヲ起立セシム

起立者十七人

○議長 多數ヲ以テ廿一番ノ説ニ確定シ次條ニ移ラシム

○書記官戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第十一條 裁許狀罫紙用方左之通

第一項 金穀之類

金拾圓
米五石
雜穀拾石

以下

金貳錢

金拾圓以上
米五石以上
雜穀拾石以上

以下

金三錢

金百圓以上
米五拾石以上
雜穀百石以上

以下

金四錢

金五百圓以上
米貳百五拾石以上
雜穀五百石以上

以下

金五錢

金千圓
米五百石
雜穀千石

以上

金六錢

第二項 人事之類

金三錢五厘

第三項 土地並建物之類

金三錢

第四項 雜事之類

金貳錢五厘

第五項

交通之類

裁判所ヨリ原被告人呼出狀等

金五厘

○廿一番 山田顯義 第九條ハ以下ノ字ヲ未滿ニ作ルノ修正ニ決議セリ然レハ本條モ亦タ同一ノ文例トナラサレハ不可ナリ

○十八番 河野敏鎌 賛成

○十番 中島信行 賛成

○十三番 東久世通禧 賛成

○廿二番 細川潤次郎 賛成

○九番 大給恒 賛成

○議長 廿一番ノ修正說ニ賛成者アルヲ以テ問題トナシ廿一番ノ說ヲ可トスル者ヲ起立セシム

起立者十六人

○議長 多數ニ依リ廿一番ノ說ニ確定シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第十二條 裁許狀罫紙ノ種類定價左ノ通

赭色罫紙 金五厘

黃色罫紙 金貳錢

紅色罫紙 金貳錢五厘

紫色罫紙 金三錢

青色罫紙 金三錢五厘

橙黃色罫紙 金四錢

綠色罫紙 金五錢

黑色罫紙

金六錢

二十八

○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全員悉ク起立シタルヲ以テ本條ニ確定シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第十三條 裁許狀ハ其類ニ照シ此罫紙ヲ用ユヘキ事

○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全員悉ク起立シタルヲ以テ本條ニ確定シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第十四條 訴訟中裁判所ヨリ原被告人等呼出ニ用フル罫紙員數ノ

定價及原被告人へ下付スル裁許狀罫紙員數ノ定價ハ曲者ヨリ三日内ニ裁判廳へ辨納スヘキ事

○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全員悉ク起立シタルヲ以テ本條ニ確定シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第十五條 官許賣捌所ノ外ニテ訴訟用印紙ヲ販賣スル者ハ其品取上ケ販賣シタル印紙代ノ百倍又其情ヲ知テ之ヲ買フ者ハ其品取上ケ買受ケタル印紙代ノ五拾倍過料可申付事

○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可トスル者ヲ起立セシム

起立者十八人

○議長 多數ニ依リ本條ニ確定シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第十六條 印紙罫紙ヲ質造スル者又ハ質造セシ品ト知テ之ヲ賣買

スル者ハ都テ其品取上ケ九拾圓以內ノ過料可申付事

○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全員悉ク起立シタルヲ以テ本條ニ確定シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第十七條 前條ニ掲ル犯則人ヲ見認メ訴出ル者ハ事實取糺シ相違

ナキニ於テハ賞トシテ其過料ノ半高下ケ與フヘキ事

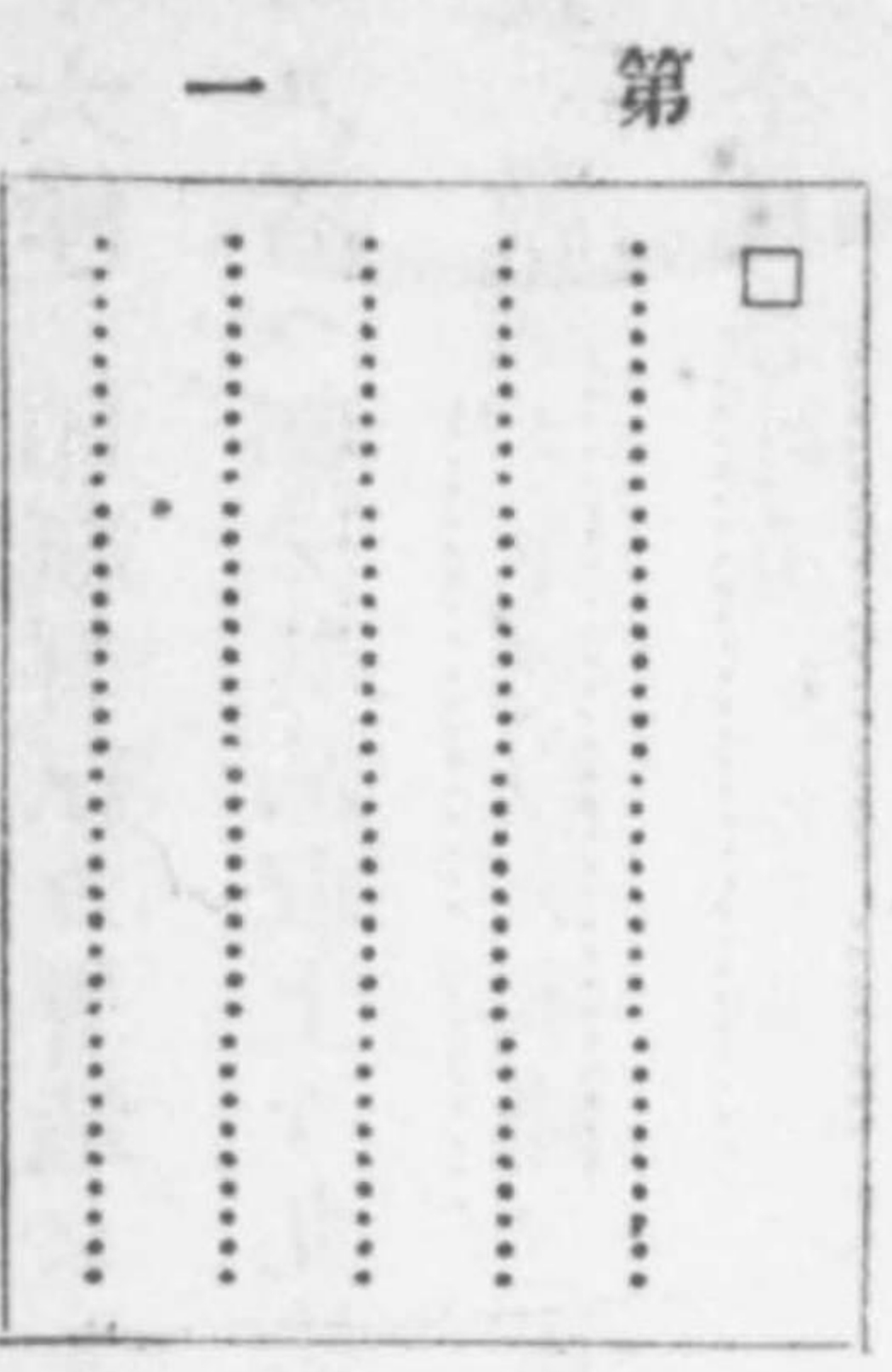
○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可トスル者ヲ起立セシム

起立者十三人

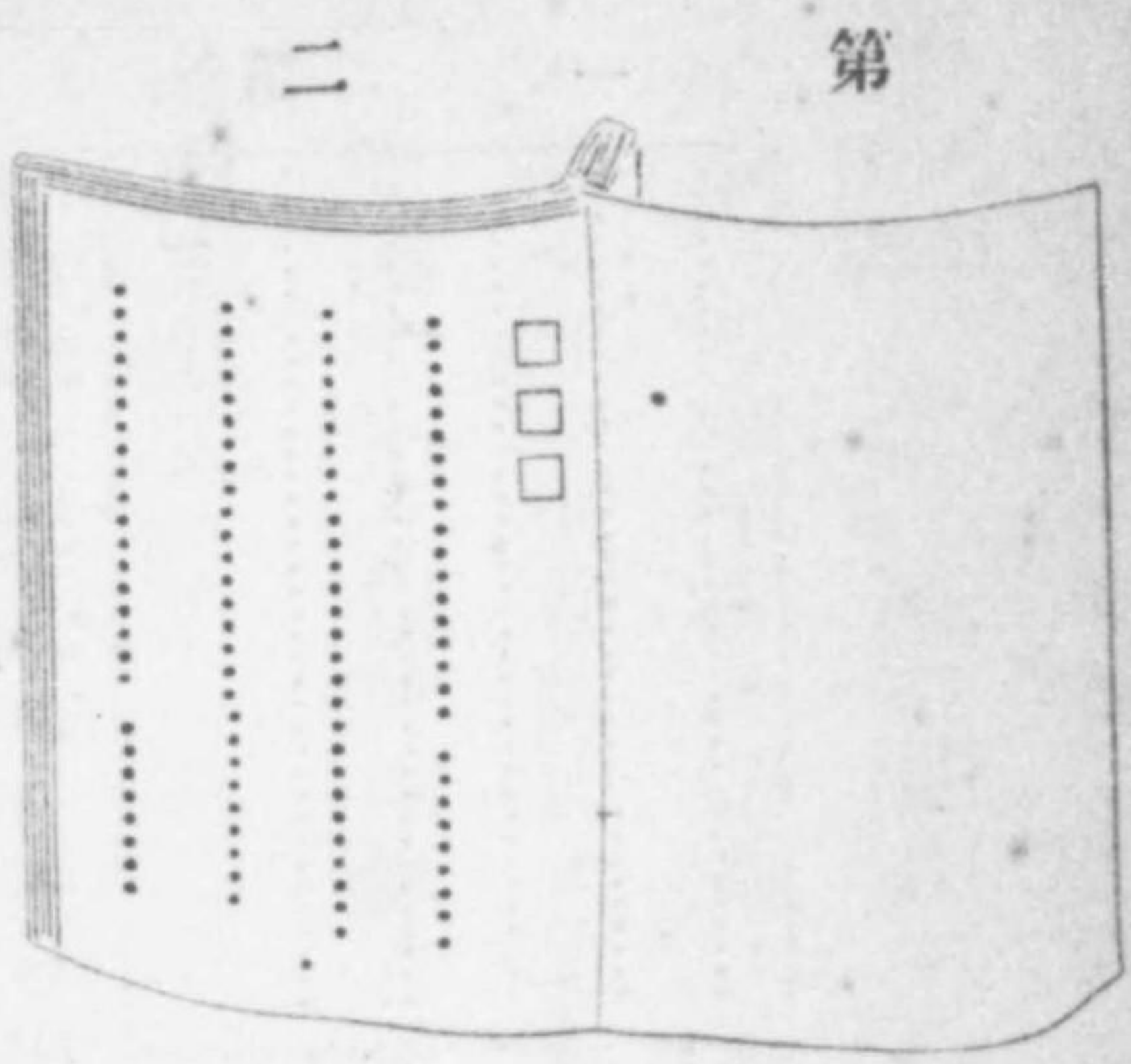
○議長 多數ニ依リ本條ニ確定シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

印紙貼用雛形



一葉ニシテ冊ヲ爲サ、ル者ハ雛形ノ如ク相當ノ印紙ヲ紙首ニ貼シ實印ヲ以テ消印スヘシ



冊ヲ爲セシ者ハ雛形ノ如ク冊中
ノ總紙數ニ相當スル丈ケノ印紙
ヲ冊中ノ初葉ニ貼附シ實印ヲ以
テ消印ス可シ

○議長 發議ナキヲ以テ本案ヲ可トスル者ヲ起立セシム
全員悉起立

○議長 全員悉ク起立シタルヲ以テ本案ニ確定シ第三讀會全ク畢リ
タレハ例ニ遵ヒ決議ノ旨ヲ上奏ス可シト告ケ解散セシム

午後第二時五分閉場

元老院會議筆記明治十一年九月三十日

第一百十二號議按西洋形船水先免狀規第一讀會

議長河野敏錄
代理

出席議員

- 二番 秋月 種樹
- 四番 吉井 友實
- 六番 岩下 方平
- 七番 前島 密
- 八番 伊丹 重賢
- 十番 中島 信行
- 十二番 大久保一翁

午前第十時十分開場

内閣委員番外 太政官大書記官渡邊 洪基

十三番 東久世通禧

十五番 柳原 前光

十七番 佐野 常民

十九番 伊集院兼寛

二十番 津田 出

廿二番 細川潤次郎

廿四番 山尾 庸三

廿五番 穴戸 璣

廿六番 齋藤 利行

○議長 本日ハ第百十二號議按ノ第一讀會ヲ開クニ依リ例規ニ遵ヒ
發議ス可シト宣フ

○書記官戸田 秋成 左ノ議按ヲ朗讀ス

布告案

明治九年十二月第百五十四號布告西洋形船水先免狀規則別冊ノ通改
正候條此旨布告候事

西洋形船水先免狀規則

第一條

明治十二年一月一日ヨリ以後下ニ記載スル海港即チ水先區ニ於テ
西洋形船舶ノ水先人トナリ營業スル者及ヒ西洋形船舶ノ水先船ト

シテ使用スル諸船へハ此規則ニ從テ發行スル免狀ヲ交付スヘシ

第二條

水先ノ事業ニ關係シタル諸般ノ事務ハ内務省ノ統轄ニ屬シ同省ニ於テハ充分其筋ニ明カナル者ヲ撰ミ此規則ニ準據シテ各試験出願人ヲ試験スヘシ

第三條

免狀ハ左ニ記載ノ海港即チ水先區ニ於ケル水先人ニ下付シ且現況ニ從テ其他ノ地方ニ於ケル水先人ニ下付スヘシ

第一 東京灣

即チ伊豆國石廊岬ヨリ同國神子本島及ヒ大島波浮港ヲ通過シテ安房國野島岬ニ至ル一線ヲ以テ疆界線ト

ス

第二 和泉灘

即チ紀伊國宮岬ヨリ淡路國仁頃ニ至ル一線ヲ以テ其南界ヲ畫シ北ハ淡路國極北ノ部ニ於ケル東經百三十五度ノ所ニ於テ畫シタル一線ヲ以テ疆界線トス

第三 和泉灘ヨリ瀬戸内ヲ通過シテ長崎迄

第四 長崎港

即チ肥前國福田村ヨリ同國伊王島ノ極北ヲ通過シ同國沖島及ヒ香燒島ヲ經テ同國深堀ニ至ル一線ヲ以テ疆界線トス

第五 津輕海峽

即チ陸奥國尻矢崎ヨリ渡島國惠山崎ニ至ル一線ヲ以テ其東界ヲ畫シ陸奥國大間村ヨリ同國龍飛崎ニ至ル一線ヲ以テ其南界ヲ畫シ同國龍飛崎ヨリ渡島國白神崎ニ至ル一線ヲ以テ其西界トス

第四條

各海港即チ水先區内ニ供備スヘキ免許水先人ノ員數ハ其海港即チ水先區ノ現況ニ從フヘシ

第五條

水先人ノ免狀ヲ出願スル者ハ自己ノ技業及ヒ性質殊ニ平素ノ行狀ニ係リ確實ナル履歷證書ヲ豫テ其本貫又ハ寄留地ノ地方官廳ヲ經テ内務省ヘ差出シ置キ或ハ試験開場ノ時ニ於テハ直ニ試験官ヘ差

出スヘシ若シ此證書ヲ差出サ、ル者ニハ之ヲ免許スルコトナカルヘシ

第六條

水先人タル者ハ年齢貳拾貳歳ニ滿チ少クモ一ケ年間ハ一百噸以上ノ西洋形船ニ於テ船長若クハ一等運轉手ノ職ヲ執リシ者若クハ六ケ年間航海ニ從事シ其中一ケ年間ハ自今營業免許ヲ受ケントスル水先區内ニ於テ既ニ水先見習人トナリ航海ニ從事セルモノニ限ルヘシ但シ其水先區内ニ在ル諸港灣海峽及ヒ碇泊場ハ勿論危險ノ場所及ヒ之ヲ避ルタメノ重立タル記標或ハ方位又ハ潮ノ滿干潮流燈光浮標礁標ノ位置ニ悉皆通曉シ且大船ヲ指揮シ之ヲ運轉スルノ任ニ充分適當セリト司驗官ヲ満足セシムルコトヲ要スヘシ

第七條

受験人試験ヲ受テ正シク須要ノ條件ニ叶ヒタル時ハ其旨ヲ内務省ニ報告シテ直チニ免狀ヲ交付スヘシ而シテ其免狀ニハ其營業ヲ免許シタル港灣ノ名稱并ニ其姓名本貫及ヒ其免狀ヲ交付セシ月日ヲ記載スヘシ但シ此免狀ハ翌年一月一日以後ハ内務省ニ乞フテ其檢査裏書ヲ受クルニアラサレハ全ク其効力ヲ有セサルモノトス

第八條

免狀ノ裏書ヲ請願セントスル者ハ毎年十一月一日以前其願書ヲ内務省ヘ差出スヘシ但シ之ヲ許可シ或ハ許可セサルトハ都テ内務省ノ意見ニ因ルヘシ

第九條

免狀ヲ遺失スルモノ又ハ摩損スルモノ或ハ年々裏書ノ爲ニ餘白ナキニ至ルモノハ其事由ヲ記シタル願書ニ其舊免狀(若シアレハ)ヲ添ヘ内務省ヘ出願シ書替新免狀ヲ申請ケヘシ但シ新免狀ヲ下付スルト否ラサルトハ同省ノ意見ニ因ルヘシ

第十條

水先人ハ始メテ其免狀ヲ願受ル時金拾圓又其書替免狀ヲ願受ル時金五圓ノ手数料ヲ上納スヘシ但シ年々裏書ノ節ハ何等ノ手数料ヲ上納スルニ及ハス

第十一條

水先人ノ試験ヲナス時ハ定日ヨリ少クモ十四日前其旨ヲ和洋兩種ノ新聞紙ヲ以テ公告スヘシ此公告ニハ其免許ヲ與フヘキ人數ノ限

リ及ヒ試験ノ場所月日ヲモ記載スヘシ

第十二條

試験出願人ノ履歷證書ヲ以テ充分満足ノモノト爲ル時ハ其出願ノ
順次ヲ以テ其姓名ヲ登簿シ其登簿ノ順次ニ從テ之カ試験ヲナスヘ
シ

第十三條

此規則ニ從テ水先免狀ヲ受ケタル外國人ハ其執業上ニ限り日本帝
國內何レノ海岸ト雖モ上陸シ且其出發地ヘ陸路歸ルヲ得ルノ特許
ヲ與フヘシ

第十四條

第三條ニ記ス水先區内ニ於テ無免許ノ者船舶ヲ嚮導スルノ際免許

水先人ヨリ其船舶ノ嚮導ヲナサント申入レ又ハ其爲メ信號ヲナス
キハ何時ニテモ免許水先人ヘ其職ヲ讓ルヘシ若シ其職ヲ讓ルヲ拒
ミ其船舶ヲ嚮導スルモノハ其現情ヲ審斷シ貳百圓以内ノ罰金ヲ科
スヘシ

第十五條

水先料ハ別表ニ記ス金高ニ過超スヘカラス尤モ表中記載セサルモ
ノハ其距離ノ遠近ニ隨テ船長及ヒ水先人ノ間ニ相當ノ約束ヲ以テ
定ム可シ

第十六條

二人以上ノ免許水先人同時ニ於テ船舶ノ嚮導ヲ申入レ又ハ其信號
ヲナスキハ最初現ニ乗船シタル者其嚮導ヲ爲シ其水先料ヲ收領シ

得ベシ

第十七條

一人若クハ數人ノ免許水先人ヨリ水路嚮導専用ノタメ水先船ノ免許ヲ願出ル時ハ内務省ヨリ其免狀ヲ與フヘシ但此免狀ハ水先人免狀ノ如ク年々其裏書ヲ乞ハシメ且其書換ヲモナサシムヘシ

第十八條

各免許水先船ハ免許ヲ得タル區域内ニ於テ其水路嚮導専用ノ爲ニハ港灣稅噸稅燈臺稅等都テ無稅ニテ運轉スルヲ得ヘシ

第十九條

各水先船ハ左ノ徵候ヲ以テ區別スヘシ

第一 水先船ノ外部ハ總テ黑色タルヘシ

第二 船尾及ヒ大帆ノ上部ニ於テ國字及ヒ羅馬字若クハ羅馬字

ノミニテ免許水先船ノ文字并ニ其番號ヲ明瞭ニペンキヲ以テ書スヘシ

第三 免許水先船ニ免許水先人ノ乗込アル時ハ桅上或ハ船首或

ハ旗竿若クハ他ノ認メ易キ場所ニ於テ日出ヨリ日没マテ水先旗ヲ翻揚スヘシ但水先旗ハ明治十年一月甲第壹號海軍省布達ニ照準スヘシ

第四 免許水先人ノ乗込ミタル免許水先船ハ夜間其停留場ニ碇

泊中モ亦運用中ニ於ケル碇地平ノ各所ヨリ認メ易キ桅上ニ於テ日没ヨリ日出マテ透明ノ白燈ヲ掲ケ又十五分時毎ニ閃光ヲ發スヘシ而シテ總テ其他ノ時間ニ於テハ風帆船

同様尋常ノ舷燈ヲ掲クヘシ

第二十條

日中ニ於テ左ニ記載スル信號ヲ表示スル時ハ水先ヲ要求スルノ信號ト認ムヘシ

第一 前橋ニ於テ其國ノ水先旗又ハ其國ノ國旗ヲ掲揚スル

第二 萬國普通ノ水先信號PTノ符字ヲ揭示スル

夜間ニ於テ左ノ信號ヲ同時若クハ別時ニ表示スル時ハ水先ヲ要求スルノ信號ト見認ムヘシ

第一 十五分毎ニ青燈ヲ掲出スル

第二 須臾ノ間歇ヲ以テ凡ソ一分時ノ間透明ナル白燈ヲ上甲板ノ舷部ニ於テ射發スル

第二十一條

各免許水先人ヘハ執業中其免狀ハ勿論此規則ノ寫ヲ一通ツ、交付スヘシ故ニ雇主ヨリ其書類ノ閱覽ヲ請フコアル時ハ直チニ之ヲ差出スヘシ若シ之ヲ拒ム時ハ其執業ヲ暫時停住シ或ハ其免狀ヲ取上ルコアルヘシ

第二十二條

内務省ニ於テ免許水先人其本分ノ職務ニ堪サルカ若クハ亂醉又ハ不行跡アルカ或ハ故ナクシテ其職務ヲ執ルコトヲ嫌ヒ若クハ之ヲ怠リタルコトアリト思惟スル時ハ同省ヨリ其掛リノ吏員ニ命シテ之ヲ審按責問セシメ而シテ其犯狀明瞭ナルニ於テハ其案情ニ隨ヒ其執業ヲ暫時停住シ或ハ其免狀ヲ取上ルコアルヘシ

○番 渡邊 洪基
外 番 洪基
本按改正ヲ要スル理由ハ從來我邦ニテハ水先嚮導船
ノ規則ヲ設ケス此ヲ以テ内外船舶トモニ若シ其嚮導ヲ要スルトキ
ハ必ス其沿海人民ノ善ク其港灣風潮ヲ熟知セシ者ヲ賃傭シ以テ其
嚮導ニ使用セリ是ヲ以テ其技業ノ適否ヲ知ルニ由ナク往々危険ニ

瀕スルヲ免レサルナリ此故ニ明治九年十二月ニ該規則ヲ創設シ始
メテ全國ニ發令セリ然リト雖モ該規則未タ整備セサルヲ以テ既ニ
其免許ヲ得タル者ト未タ其免許ヲ得サル者ト權利ノ差違未タ判然
タラス此故ニ其免許ヲ得タル者モ亦タ畢竟徒爲ニ屬スルヲ免レス
且ツ本按ハ内外人民トモ一般ニ之ヲ遵行セシムルモノナレハ今其
不整備ナルモノヲ改正シ以テ完全無缺ノ法則トナサンコトヲ欲スル
ナリ各位此意ヲ了セラレンコトヲ乞フ

○議長 發議ナキヲ以テ第一讀會ハ此ニ畢リ第二讀會ノ期日ハ追テ
報告ス可シト告ケ散會セシム

午前第十時二十五分開場

時

第二十三條

此免狀ハ他人ニ貸與或ハ讓與スヘカラス若シ貸與或ハ讓與スル時
ハ其免狀ヲ取上クヘシ

水先料一覽表

第壹部 東京灣ノ部

發	地著	地	標
海上ヨリ	横濱港迄	地風帆船及ヒ汽船水先料	水脚一「フー」トニ付
横濱港ヨリ	海上迄	金三圓	右同斷ニ付
海上ヨリ	品川碓泊所迄	金三圓	右同斷ニ付
品川碓泊所ヨリ	海上迄	金四圓	右同斷ニ付
横濱港ヨリ	品川碓泊所迄	金四圓	右同斷ニ付
品川碓泊所ヨリ	海上迄	金四圓	右同斷ニ付
横濱港ヨリ	品川碓泊所迄	金貳拾五圓	一航海ニ付
品川碓泊所ヨリ	横濱港迄	金貳拾五圓	右同斷ニ付
横濱港ヨリ	横須賀港迄	金貳拾五圓	右同斷ニ付
横須賀港ヨリ	横濱港迄	金貳拾五圓	右同斷ニ付
品川碓泊所ヨリ	品川碓泊所迄	金四拾圓	右同斷ニ付
品川碓泊所ヨリ	横須賀港迄	金四拾圓	右同斷ニ付

第貳部 紀伊海峽及和泉灘ノ部

發	地著	地	標
海上ヨリ	兵庫神戸或ハ大坂碓泊所迄	地風帆船及ヒ汽船水先料	水脚一「フー」トニ付
兵庫神戸或ハ大坂碓泊所ヨリ	海上迄	金三圓	右同斷ニ付
兵庫或ハ神戸港ヨリ	大坂碓泊所迄	金壹圓五拾錢	右同斷ニ付
大坂碓泊所ヨリ	兵庫或ハ神戸港迄	金壹圓五拾錢	右同斷ニ付
大坂碓泊所ヨリ	神戸ヲ經テ海上迄	金四圓	右同斷ニ付

第三部 長崎港ノ部

發	地著	地	標
海上ヨリ	長崎港迄	地風帆船及ヒ汽船水先料	水脚一「フー」トニ付
長崎港ヨリ	海上迄	金貳圓	右同斷ニ付
長崎港ヨリ	海上迄	金壹圓五拾錢	右同斷ニ付

第四部 津輕海峽ノ部

發	地著	地	標
海上ヨリ	函館或ハ青森繫船場迄	地風帆船水先料	水脚一「フー」トニ付
函館或ハ青森繫船場ヨリ	海上迄	金貳圓五拾錢	右同斷ニ付
海上ヨリ	函館或ハ青森繫船場迄	地風帆船水先料	水脚一「フー」トニ付
函館或ハ青森繫船場ヨリ	海上迄	金貳圓	右同斷ニ付

兵庫神戸或ハ大坂碇泊所ヨリ	海上迄	金三圓	右同斷ニ付
兵庫或ハ神戸港ヨリ	大坂碇泊所迄	金壹圓五拾錢	右同斷ニ付
大坂碇泊所ヨリ	兵庫或ハ神戸港迄	金壹圓五拾錢	右同斷ニ付
大坂碇泊所ヨリ	神戸ヲ經テ海上迄	金四圓	右同斷ニ付

第三 長崎港ノ部

發	地著	地 風帆船及ヒ汽船水先料	標
海上ヨリ	長崎港迄	金貳圓	水脚一「フート」ニ付
長崎港ヨリ	海上迄	金壹圓五拾錢	右同斷ニ付

第四 津輕海峽ノ部

發	地著	地 風帆船水先料	濕船水先料	標
海上ヨリ	函館或ハ青森繫船場迄	金貳圓五拾錢	金貳圓	水脚一「フート」ニ付
函館或ハ青森繫船場ヨリ	海上迄	金貳圓五拾錢	金貳圓	右同斷ニ付

第五 沿海ノ部

發	著	地 噸	數	風帆船水先料	標
東京灣ヨリ	兵庫神戸或ハ大坂迄又兵庫神戸或ハ大坂ヨリ	二百噸以下二百噸迄	金八拾圓		
	兵庫神戸或ハ大坂ヨリ	三百噸以上五百五拾噸迄	金百圓		
	下ノ關或ハ長崎迄又下ノ關或ハ長崎ヨリ	五百五拾噸以上七百五拾噸迄	金百貳拾圓		一航海ニ付
	神戸或ハ大坂迄	七百五拾噸以上千噸迄	金百三拾五圓		
		千噸以上	金百五拾圓		

東京灣ヨリ	直航下ノ關或ハ長崎迄又下ノ關或ハ長崎ヨリ	直航東京灣	東京灣迄	マテ
東京灣ヨリ	直航下ノ關或ハ長崎迄又下ノ關或ハ長崎ヨリ	三百噸以下二百噸迄	金百貳拾圓	
	坂ヲ經テ下ノ關或ハ長崎迄又下ノ關或ハ長崎ヨリ	三百噸以上五百五拾噸迄	金百五拾圓	
	テ東京灣迄	五百五拾噸以上七百五拾噸迄	金百八拾圓	一航海ニ付
		七百五拾噸以上千噸迄	金貳百圓	
		千噸以上	金貳百貳拾五圓	

發	地著	地 噸	船	水先料	標
東京灣ヨリ	兵庫神戸或ハ大坂迄	金六圓			水脚一「フート」ニ付
兵庫神戸或ハ大坂ヨリ	東京灣迄	金六圓			右同斷ニ付
東京灣ヨリ	直航長崎港迄	金九圓			右同斷ニ付
長崎港ヨリ	直航東京灣迄	金九圓			右同斷ニ付
東京灣ヨリ	神戸或ハ兵庫ヲ經テ長崎港迄	金拾貳圓			右同斷ニ付
長崎港ヨリ	神戸或ハ兵庫ヲ經テ東京灣迄	金拾貳圓			右同斷ニ付
兵庫神戸或ハ大坂ヨリ	下ノ關海峽ノ外部或ハ長崎港迄	金六圓			右同斷ニ付
下ノ關海峽ノ外部或ハ長崎港ヨリ	兵庫神戸或ハ大坂迄	金六圓			右同斷ニ付

發	地著	地	船	水	先料	標	註
東京灣ヨリ兵庫神戸或ハ大坂迄又兵庫神戸或ハ大坂ヨリ東京灣迄	兵庫神戸或ハ大坂迄	金六圓	金百貳拾圓	金百貳拾圓	水脚一「フ」トニ付	一航海ニ付	
東京灣ヨリ直航下ノ關或ハ長崎迄又下ノ關或ハ長崎ヨリ直航東京灣	三百噸以下三百噸迄	金百貳拾圓	金百五拾圓	金百八拾圓	金貳百貳拾五圓	一航海ニ付	
東京灣ヨリ神戶或ハ大坂ヲ經テ下ノ關或ハ長崎迄又下ノ關或ハ長崎ヨリ神戶或ハ大坂ヲ經テ東京灣迄	三百噸以上五百五拾噸迄	金百七拾五圓	金貳百拾圓	金貳百三拾五圓	金貳百六拾圓	一航海ニ付	
東京灣ヨリ	二百噸以下三百噸迄	金百四拾圓					
兵庫神戸或ハ大坂ヨリ	三百噸以上五百五拾噸迄	金百七拾五圓					
東京灣ヨリ	五百五拾噸以上七百五拾噸迄	金貳百拾圓					
長崎港ヨリ	七百五拾噸以上千噸迄	金百三拾五圓					
東京灣ヨリ	千噸以上	金百五拾圓					
長崎港ヨリ	神戶或ハ兵庫ヲ經テ東京灣迄	金拾貳圓					
兵庫神戸或ハ大坂ヨリ	神戶或ハ兵庫ヲ經テ長崎港迄	金拾貳圓					
下ノ關海峽外部或ハ長崎港ヨリ	下ノ關海峽外部或ハ長崎港迄	金六圓					
	兵庫神戸或ハ大坂迄	金六圓					

第一 此表中水脚ト稱スルモノハ本船ノ最モ深キ水脚ヲ云フ

第二 水先人ノ嚮導ニ因リ繫泊スル船舶ハ汽船帆船ニ係ラス三百噸以下ハ拾圓三百噸以上ハ水脚一「フ」トニ付壹圓ノ割ヲ以テ繫泊案内料ヲ拂ハシム

第三 此表中ニ定メタル沿海水先料ハ水先人ノ歸郷旅費ヲ包含スルモノトス

第四 此表中ニ記載セサル沿海水先料ハ船長ト水先人ノ示談ヲ以テ取極ムヘシ

元老院會議筆記明治十一年十月二日
○第四百十二號議按
西洋形船水先免狀規第二讀會
則改正ノ備布告按

元老院會議筆記明治十一年十月二日

○第四百十二號議按
西洋形船水先免狀規第二讀會
則改正ノ備布告按

議長 柳原前光
代理

出席議員

- | | |
|-----|-------|
| 一番 | 黑田 清綱 |
| 二番 | 秋月 種樹 |
| 六番 | 岩下 方平 |
| 七番 | 前島 密 |
| 八番 | 伊丹 重賢 |
| 十二番 | 大久保一翁 |
| 十三番 | 東久世通禧 |

午前第十時三十分開場

内閣委員番外 一番 太政官大書記官渡邊 洪基

- 十六番 河田 景與
- 十七番 佐野 常民
- 十九番 伊集院兼寛
- 二十番 津田 出
- 廿一番 山田 顯義
- 廿二番 細川潤次郎
- 廿三番 楠田 英世
- 廿六番 齋藤 利行
- 廿七番 津田 眞道

○議長 本日ハ各議官席次ノ抽籤ヲ爲ス可キ例規ナリト雖正前月ヨ

リ繼續ノ議按ノミナレハ其席次ハ依然舊ノ如クシ且ツ正副議長ト

モニ事故アツテ不參セリ故ニ本官其任ヲ代理シ第百十二號議按ノ

第二讀會ヲ開クニツキ例規ニ依リ發論ス可シト演フ

○書記官戸田秋成 左ノ議按ヲ逐條朗讀ス

布告案

明治九年十二月第百五十四號布告西洋形船水先免狀規則別冊ノ通改

正候條此旨布告候事

西洋形船水先免狀規則

第一條

明治十二年一月一日ヨリ以後下ニ記載スル海港即チ水先區ニ於テ西洋形船舶ノ水先人トナリ營業スル者及ヒ西洋形船舶ノ水先船トシテ使用スル諸船ヘハ此規則ニ從テ發行スル免狀ヲ交付スヘシ

第二條

水先ノ事業ニ關係シタル諸般ノ事務ハ内務省ノ統轄ニ屬シ同省ニ於テハ充分其筋ニ明カナル者ヲ撰ミ此規則ニ準據シテ各試驗出願人ヲ試驗スヘシ

第三條

免狀ハ左ニ記載ノ海港即チ水先區ニ於ケル水先人ニ下付シ且現況ニ從テ其他ノ地方ニ於ケル水先人ニ下付スヘシ

第一 東京灣

即チ伊豆國石廊岬ヨリ同國神子本島及ヒ大島波浮港ヲ通過シテ安房國野島岬ニ至ル一線ヲ以テ疆界線トス

第二 和泉灘

即チ紀伊國宮岬ヨリ淡路國仁頃ニ至ル一線ヲ以テ其南界ヲ畫シ北ハ淡路國極北ノ部ニ於ケル東經百三十五度ノ所ニ於テ畫シタル一線ヲ以テ疆界線トス

第三 和泉灘ヨリ瀬戸内ヲ通過シテ長崎迄

第四 長崎港

即チ肥前國福田村ヨリ同國伊王島ノ極北ヲ通過シ同國沖島及ヒ香燒島ヲ經テ同國深堀ニ至ル一線ヲ以テ

疆界線トス

第五 津輕海峽

即チ陸奥國尻矢崎ヨリ渡島國惠山崎ニ至ル一線ヲ以テ其東界ヲ畫シ陸奥國大間村ヨリ同國龍飛崎ニ至ル一線ヲ以テ其南界ヲ畫シ同國龍飛崎ヨリ渡島國白神崎ニ至ル一線ヲ以テ其西界トス

第四條

各海港即チ水先區内ニ供備スヘキ免許水先人ノ員數ハ其海港即チ水先區ノ現況ニ從フヘシ

第五條

水先人ノ免狀ヲ出願スル者ハ自己ノ技業及ヒ性質殊ニ平素ノ行狀

ニ係リ確實ナル履歷證書ヲ豫テ其本貫又ハ寄留地ノ地方官廳ヲ經テ内務省ヘ差出シ置キ或ハ試験開場ノ時ニ於テハ直ニ試験官ヘ差出スヘシ若シ此證書ヲ差出サ、ル者ニハ之ヲ免許スルコトナカルヘシ

第六條

水先人タル者ハ年齡貳拾貳歲ニ滿チ少クモ一ケ年間ハ一百噸以上ノ西洋形船ニ於テ船長若クハ一等運轉手ノ職ヲ執リシ者若クハ六ケ年間航海ニ從事シ其中一ケ年間ハ自今營業免許ヲ受ケントスル水先區内ニ於テ既ニ水先見習人トナリ航海ニ從事セルモノニ限ルヘシ但シ其水先區内ニ在ル諸港灣海峽及ヒ碇泊場ハ勿論危險ノ場所及ヒ之ヲ避ルタメノ重立タル記標或ハ方位又ハ潮ノ滿干潮流燈

光浮標礁標ノ位置ニ悉皆通曉シ且大船ヲ指揮シ之ヲ運轉スルノ任ニ充分適當セリト司驗官ヲ満足セシムルヲ要スヘシ

第七條

受驗人試験ヲ受テ正シク須要ノ條件ニ叶ヒタル時ハ其旨ヲ内務省ニ報告シテ直チニ免狀ヲ交付スヘシ而シテ其免狀ニハ其營業ヲ免許シタル港灣ノ名稱并ニ其姓名本貫及ヒ其免狀ヲ交付セシ月日ヲ記載スヘシ但シ此免狀ハ翌年一月一日以後ハ内務省ニ乞フテ其檢査裏書ヲ受クルニアラサレハ全ク其効力ヲ有セサルモノトス

第八條

免狀ノ裏書ヲ請願セントスル者ハ毎年十一月一日以前其願書ヲ内務省へ差出スヘシ但シ之ヲ許可シ或ハ許可セサルトハ都テ内務省

ノ意見ニ因ルヘシ

第九條

免狀ヲ遺失スルモノ又ハ摩損スルモノ或ハ年々裏書ノ爲ニ餘白ナキニ至ルモノハ其事由ヲ記シタル願書ニ其舊免狀若シアレハヲ添へ内務省へ出願シ書替新免狀ヲ申請ケヘシ但シ新免狀ヲ下付スルト否ラサルトハ同省ノ意見ニ因ルヘシ

第十條

水先人ハ始メテ其免狀ヲ願受ル時金拾圓又其書替免狀ヲ願受ル時金五圓ノ手数料ヲ上納スヘシ但シ年々裏書ノ節ハ何等ノ手数料ヲ上納スルニ及ハス

第十一條

水先人ノ試験ヲナス時ハ定日ヨリ少クモ十四日前其旨ヲ和洋兩種
ノ新聞紙ヲ以テ公告スヘシ此公告ニハ其免許ヲ與フヘキ人數ノ限
リ及ヒ試験ノ場所月日ヲモ記載スヘシ

第十二條

試験出願人ノ履歷證書ヲ以テ充分満足ノモノト爲ル時ハ其出願ノ
順次ヲ以テ其姓名ヲ登簿シ其登簿ノ順次ニ從テ之カ試験ヲナスヘ
シ

第十三條

此規則ニ從テ水先免狀ヲ受ケタル外國人ハ其執業上ニ限り日本帝
國內何レノ海岸ト雖モ上陸シ且其出發地ヘ陸路歸ルヲ得ルノ特許
ヲ與フヘシ

第十四條

第三條ニ記ス水先區内ニ於テ無免許ノ者船舶ヲ嚮導スルノ際免許
水先人ヨリ其船舶ノ嚮導ヲナサント申入レ又ハ其爲メ信號ヲナス
ルハ何時ニテモ免許水先人ヘ其職ヲ讓ルヘシ若シ其職ヲ讓ルヲ拒
ミ其船舶ヲ嚮導スルモノハ其現情ヲ審斷シ貳百圓以内ノ罰金ヲ科
スヘシ

第十五條

水先料ハ別表ニ記ス金高ニ過超スヘカラス尤モ表中記載セサルモ
ノハ其距離ノ遠近ニ隨テ船長及ヒ水先人ノ間ニ相當ノ約束ヲ以テ
定ム可シ

第十六條

二人以上ノ免許水先人同時ニ於テ船舶ノ嚮導ヲ申入レ又ハ其信號ヲナスキハ最初現ニ乗船シタル者其嚮導ヲ爲シ其水先料ヲ收領シ得ベシ

第十七條

一人若クハ數人ノ免許水先人ヨリ水路嚮導専用ノタメ水先船ノ免許ヲ願出ル時ハ内務省ヨリ其免狀ヲ與フヘシ但此免狀ハ水先人免狀ノ如ク年々其裏書ヲ乞ハシメ且其書換ヲモナサシムヘシ

第十八條

各免許水先船ハ免許ヲ得タル区域内ニ於テ其水路嚮導用ノ爲ニハ港灣稅噸稅燈臺稅等都テ無稅ニテ運轉スルヲ得ヘシ

第十九條

各水先船ハ左ノ徵候ヲ以テ區別スヘシ

第一 水先船ノ外部ハ總テ黑色タルヘシ

第二 船尾及ヒ大帆ノ上部ニ於テ國字及ヒ羅馬字若クハ羅馬字ノミニテ免許水先船ノ文字并ニ其番號ヲ明瞭ニペンキヲ

以テ書スヘシ

第三 免許水先船ニ免許水先人ノ乗込アル時ハ桅上或ハ船首或ハ旗竿若クハ他ノ認メ易キ場所ニ於テ日出ヨリ日没マテ

水先旗ヲ翻揚スヘシ但水先旗ハ明治十年一月甲第壹號海

軍省布達ニ照準スヘシ

第四 免許水先人ノ乗込ミタル免許水先船ハ夜間其停留場ニ碇

泊中モ亦運用中ニ於ケルモ地平ノ各所ヨリ認メ易キ桅上

ニ於テ日没ヨリ日出マテ透明ノ白燈ヲ掲ケ又十五分時毎ニ閃光ヲ發スヘシ而シテ總テ其他ノ時間ニ於テハ風帆船同様尋常ノ舷燈ヲ掲ケヘシ

第二十條

日中ニ於テ左ニ記載スル信號ヲ表示スル時ハ水先ヲ要求スルノ信號ト認ムヘシ

第一 前櫓ニ於テ其國ノ水先旗又ハ其國ノ國旗ヲ掲揚スルコト

第二 萬國普通ノ水先信號PTノ符字ヲ揭示スルコト

夜間ニ於テ左ノ信號ヲ同時若クハ別時ニ表示スル時ハ水先ヲ要求スルノ信號ト見認ムヘシ

第一 十五分時毎ニ青燈ヲ掲出スルコト

第二 須臾ノ間歇ヲ以テ凡ソ一分時ノ間透明ナル白燈ヲ上甲板

ノ舷部ニ於テ射發スルコト

第二十一條

各免許水先人ヘハ執業中其免狀ハ勿論此規則ノ寫ヲ一通ツ、交付スヘシ故ニ雇主ヨリ其書類ノ閱覽ヲ請フコトアル時ハ直チニ之ヲ差出スヘシ若シ之ヲ拒ム時ハ其執業ヲ暫時停住シ或ハ其免狀ヲ取上ルコトアルヘシ

第二十二條

内務省ニ於テ免許水先人其本分ノ職務ニ堪サルカ若クハ亂醉又ハ不行跡アルカ或ハ故ナクシテ其職務ヲ執ルコトヲ嫌ヒ若クハ之ヲ怠リタルコトアリト思惟スル時ハ同省ヨリ其掛リノ吏員ニ命シテ之ヲ

審按責問セシメ而シテ其犯狀明瞭ナルニ於テハ其案情ニ隨ヒ其執業ヲ暫時停止シ或ハ其免狀ヲ取上ルコアルヘシ

第二十三條

此免狀ハ他人ニ貸與或ハ讓與スヘカラス若シ貸與或ハ讓與スル時ハ其免狀ヲ取上クヘシ

水先料

第壹章

發地	海上ヨリ	横濱港ヨリ	品川碇泊所ヨリ	横濱港ヨリ	品川碇泊所ヨリ	横濱港ヨリ	横須賀港ヨリ	品川碇泊所ヨリ
----	------	-------	---------	-------	---------	-------	--------	---------

第貳章

○議長 十七番ノ建議ヲ可トスル者ヲ起立セシム

起立者十五人

○議長 多數ヲ以テ十七番ノ建議ニ決シ七番前島密十七番佐野常民廿六番齋藤利行ヲ修正ノ委員トナシ追テ其報告ヲ得テ開會ス可キ旨ヲ告ケ解散セシム

正ヲ
正ヲ

之ヲ
害ヲ
讀會
正シ

審按責問セシメ而シテ其犯狀明瞭ナルニ於テハ其案情ニ隨ヒ其執業ヲ暫時停住シ或ハ其免狀ヲ取上ルコアルヘシ

第二十三條

此免狀ハ他人ニ貸與或ハ讓與スヘカラス若シ貸與或ハ讓與スル時ハ其免狀ヲ取上クヘシ

水先料一覽表

第一 東京灣ノ部

發	地著	地	標
海上ヨリ	横濱港迄	風帆船及ヒ汽船水先料	水脚一「フー」トニ付
横濱港ヨリ	海上迄	金三圓	右同斷ニ付
海上ヨリ	品川碇泊所迄	金四圓	右同斷ニ付
品川碇泊所ヨリ	海上迄	金四圓	右同斷ニ付
横濱港ヨリ	品川碇泊所迄	金貳拾五圓	一航海ニ付
品川碇泊所ヨリ	横濱港迄	金貳拾五圓	右同斷ニ付
横濱港ヨリ	横須賀港迄	金貳拾五圓	右同斷ニ付
横須賀港ヨリ	横濱港迄	金貳拾五圓	右同斷ニ付
横須賀港ヨリ	品川碇泊所迄	金四拾圓	右同斷ニ付
品川碇泊所ヨリ	横須賀港迄	金四拾圓	右同斷ニ付

第二 紀伊海峽及和泉灘ノ部

發	地著	地	標
海上ヨリ	兵庫神戸或ハ大坂碇泊所迄	風帆船及ヒ汽船水先料	水脚一「フー」トニ付
兵庫神戸或ハ大坂碇泊所ヨリ	海上迄	金三圓	右同斷ニ付
兵庫或ハ神戸港ヨリ	大坂碇泊所迄	金壹圓五拾錢	右同斷ニ付
大坂碇泊所ヨリ	兵庫或ハ神戸港迄	金壹圓五拾錢	右同斷ニ付
大坂碇泊所ヨリ	神戸ヲ經テ海上迄	金四圓	右同斷ニ付

第三 長崎港ノ部

發	地著	地	標
海上ヨリ	長崎港迄	風帆船及ヒ汽船水先料	水脚一「フー」トニ付
長崎港ヨリ	海上迄	金貳圓	右同斷ニ付
		金壹圓五拾錢	

註

海上ヨリ	兵庫神戸或ハ大坂碇泊所ヨリ	海上迄	金三圓	右同斷ニ付
兵庫或ハ神戸港ヨリ	大坂碇泊所迄	金壹圓五拾錢	右同斷ニ付	
大坂碇泊所ヨリ	兵庫或ハ神戸港迄	金壹圓五拾錢	右同斷ニ付	
大坂碇泊所ヨリ	神戸ヲ經テ海上迄	金四圓	右同斷ニ付	

第三 長崎港ノ部

發	地著	地	風帆船及ヒ汽船水先料	標
海上ヨリ	長崎港迄	地	風帆船及ヒ汽船水先料	標
長崎港ヨリ	海上迄	金壹圓五拾錢	水脚一フートニ付	右同斷ニ付

第四 津輕海峡ノ部

發	地著	地	風帆船水先料	汽船水先料	標
海上ヨリ	函館或ハ青森繫船場迄	地	風帆船水先料	汽船水先料	標
函館或ハ青森繫船場ヨリ	海上迄	金貳圓五拾錢	金貳圓	水脚一フートニ付	右同斷ニ付

第五 沿海ノ部

發	著	地噸	數	風帆船水先料	標
東京灣ヨリ	兵庫神戸或ハ大坂迄	二百噸以下二百噸迄	金八拾圓	一航海ニ付	
兵庫神戸或ハ大坂ヨリ	東京灣迄	二百噸以上五百五拾噸迄	金百圓		
東京灣ヨリ	兵庫神戸或ハ大坂ヨリ	五百五拾噸以上七百五拾噸迄	金百貳拾圓		
兵庫神戸或ハ大坂ヨリ	東京灣迄	七百五拾噸以上千噸迄	金百三拾五圓		
東京灣ヨリ	直航下ノ關	千噸以上	金百五拾圓		

東京灣ヨリ	直航下ノ關	二百噸以下二百噸迄	金百貳拾圓	一航海ニ付
或ハ長崎迄	又下ノ關或	三百噸以上五百五拾噸迄	金百五拾圓	
ハ長崎ヨリ	直航東京灣	五百五拾噸以上七百五拾噸迄	金百八拾圓	
マテ		七百五拾噸以上千噸迄	金貳百圓	
東京灣ヨリ	神戸或ハ大坂ヲ經テ下ノ關或ハ長崎迄	千噸以上	金貳百貳拾五圓	

發	地著	地噸	船水先料	標
東京灣ヨリ	兵庫神戸或ハ大坂迄	金六圓	水脚一フートニ付	右同斷ニ付
兵庫神戸或ハ大坂ヨリ	東京灣迄	金六圓		
東京灣ヨリ	直航長崎港迄	金九圓		
長崎港ヨリ	直航東京灣迄	金九圓		
東京灣ヨリ	神戸或ハ兵庫ヲ經テ長崎港迄	金拾貳圓		
長崎港ヨリ	神戸或ハ兵庫ヲ經テ東京灣迄	金拾貳圓		
兵庫神戸或ハ大坂ヨリ	下ノ關海峽ノ外部或ハ長崎港迄	金六圓		

發	地著	地濱	船	水	先料	標	註
東京灣ヨリ	兵庫神戸或ハ大坂迄	金六圓			金百四拾圓	水脚一フートニ付	
兵庫神戸或ハ大坂ヨリ	東京灣迄	金六圓			金百七拾五圓	右同斷ニ付	
東京灣ヨリ	直航長崎港迄	金九圓				右同斷ニ付	
長崎港ヨリ	直航東京灣迄	金九圓				右同斷ニ付	
東京灣ヨリ	神戸或ハ兵庫ヲ經テ長崎港迄	金拾貳圓				右同斷ニ付	
長崎港ヨリ	神戸或ハ兵庫ヲ經テ東京灣迄	金拾貳圓				右同斷ニ付	
兵庫神戸或ハ大坂ヨリ	下ノ關海峽外部或ハ長崎港迄	金六圓				右同斷ニ付	
下ノ關海峽外部或ハ長崎港ヨリ	兵庫神戸或ハ大坂迄	金六圓				右同斷ニ付	
東京灣ヨリ神戸或ハ大坂ヲ經テ下ノ關或ハ長崎迄又下ノ關或ハ長崎ヨリ神戸或ハ大坂ヲ經テ東京灣迄	三百噸以下三百噸迄	金百貳拾圓				一航海ニ付	
	三百噸以上五百五拾噸迄	金百五拾圓					
	五百五拾噸以上七百五拾噸迄	金百八拾圓					
	七百五拾噸以上千噸迄	金貳百圓					
	千噸以上	金貳百貳拾五圓					
	三百噸以下三百噸迄	金百四拾圓					
	三百噸以上五百五拾噸迄	金百七拾五圓					
	五百五拾噸以上七百五拾噸迄	金貳百拾圓					
	七百五拾噸以上千噸迄	金貳百三拾五圓					
	千噸以上	金貳百六拾圓					

第一 此表中水脚ト稱スルモノハ本船ノ最モ深キ水脚ヲ云フ

第二 水先人ノ嚮導ニ因リ繫泊スル船舶ハ漁船帆船ニ係ラス三百噸以下ハ拾圓三百噸以上ハ水脚一フートニ付

第三 此表中ニ定メタル沿海水先料ハ水先人ノ歸郷旅費ヲ包含スルモノトス

第四 此表中ニ記載セサル沿海水先料ハ船長ト水先人ノ示談ヲ以テ取極ムヘシ

○議長 多數ヲ以テ十七番ノ建議ニ決シ七番前島十七番佐野廿六番常民齋藤ヲ修正ノ委員トナシ追テ其報告ヲ得テ開會ス可キ旨ヲ告ケ解利行散セシム

ス三百噸

壹圓ノ割

第三 此表中ニ

包含スル

第四 此表中ニ

談ヲ以テ

其執

十六

スル時

○十七番 佐野常民 向キニ第一讀會ニ方リ委員ノ説ニ原規則ハ不整備ナルヲ以テ改正ヲ要セリト説明セリ然ルニ本按ヲ熟閱スルニ修正ヲ

加ント欲スル條項一ニシテ足ラスト認ム本按ハ我邦人民ノミ之ヲ遵行セシムルニアラス外國人民ニモ普及ストナレハ其得失利害ヲ審議講究シ以テ完全無缺ノ法典トナサ、ルヲ得ス冀クハ第二讀會ノ前ニ方リ委員ヲ撰擇シ之ニ全部ヲ委托シ周到綴密ニ之ヲ修正シ而シテ其報告ヲ得テ後チ審議討論ニ附セラレンコトヲ乞フ

○廿二番 細川潤次郎 賛成

○議長 十七番ノ建議ヲ可トスル者ヲ起立セシム

起立者十五人

○議長 多數ヲ以テ十七番ノ建議ニ決シ七番 前島密 十七番 佐野常民 廿六番 齋藤利行 ヲ修正ノ委員トナシ追テ其報告ヲ得テ開會ス可キ旨ヲ告ケ解散セシム

午前第十時五十分閉場

元老院會議筆記明治十一年十月廿四日

○第一百十二號議按西洋形船水先免狀規第二讀會ノ續

議長有栖川
熾仁

出席議員

- | | | |
|-----|-----|----|
| 二番 | 秋月 | 種樹 |
| 六番 | 岩下 | 方平 |
| 七番 | 前島 | 密 |
| 八番 | 伊丹 | 重賢 |
| 九番 | 大給 | 恒 |
| 十一番 | 山口 | 尙芳 |
| 十二番 | 大久保 | 一翁 |

十三番	東久世通禧
十五番	柳原 前光
十七番	佐野 常民
十八番	河野 敏鎌
二十番	津田 出
廿一番	山田 顯義
廿二番	細川潤次郎
廿五番	宍戸 璣

内閣委員 番外 太政官大書記官渡邊 洪基

午前第十時二十分開場

○議長 本日ハ第百十二號議按ノ第二讀會ノ續キヲ開クニ依リ例規

ニ遵ヒ發議ス可シト宣フ

○十五番 柳原前光 別ニ建議セントス前會ニ委員ヲ選ヒ本按全部ノ修正

ヲ委托シ既ニ其ノ報告ヲ得テ本日ノ開會ナレハ修正ノ按ヲ以テ本按トナシ審議討論ニ附セラレンコヲ企望ス

○議長 十五番ノ建議ヲ問題トナシ十五番ノ議ヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全員悉ク可トシタルヲ以テ修正按ヲ以テ本按トナス

○書記官 戸田秋成 左ノ議按ヲ逐條朗讀ス

布告按

明治九年^{十二月}第百五十四號布告西洋形船水先免狀規則別冊ノ通改

正候條此旨布告候事

○議長 發議ナキヲ以テ布告按ヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全員悉ク可トシタルヲ以テ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

西洋形船水先免狀規則

第一條 明治十二年一月一日ヨリ以後下ニ記載スル海港即チ水先

區ニ於テ西洋形船舶ノ水先人トナリ營業スル者及ヒ西洋形船舶

ノ水先船トシテ使用スル諸船ヘハ此規則ニ從テ發行スル免狀ヲ

交付スヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全員悉ク可トシタルヲ以テ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第二條 水先ノ事業ニ關係シタル諸般ノ事務ハ内務省ノ統轄ニ屬

シ同省ニ於テハ充分其筋ニ明カナル者ヲ撰ミ此規則ニ準據シテ

各試験出願人ヲ試験スヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全員悉ク可トシタルヲ以テ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第三條 免狀ハ左ニ記載ノ海港即チ水先區ニ於ケル水先人ニ下付

シ且現況ニ從テ其他ノ地方ニ於ケル水先人ニ下付スヘシ

第一 東京灣

即チ伊豆國石廊岬ヨリ同國神子本島及ヒ大島波浮港ヲ通過シテ安房國野島岬ニ至ル一線ヲ以テ疆界線トス

第二 和泉灘

即チ紀伊國宮岬ヨリ淡路國鹽崎ノ仁頃ニ至ル一線ヲ以テ其南界ヲ畫シ北ハ淡路國極北ノ部ニ於ケル東經百三十五度ノ所ニ於テ畫シタル一線ヲ以テ疆界線トス

第三 和泉灘ヨリ瀬戸内ヲ通過シテ長崎迄

第四 長崎港

即チ肥前國福田村ヨリ同國伊王島ノ極北ヲ通過シ同國沖島及ヒ香焼島ヲ經テ同國深堀ニ至ル一線ヲ以テ疆界線トス

第五 津輕海峽

即チ陸奥國尻矢崎ヨリ渡島國惠山崎ニ至ル一線ヲ以テ其東界ヲ畫シ陸奥國大間村ヨリ同國龍飛崎ニ至ル一線ヲ以テ其南界ヲ畫シ同國龍飛崎ヨリ渡島國白神崎ニ至ル一線ヲ以テ其西界トス

○廿二番 細川潤次郎

本條ニ瑣細ノ修正ヲ加ヘント欲ス本條ニ下付ノ字面前後兩出セリ本按第一條第七條第二十二條トモニ交付ノ字面ヲ

使用セリ下付交付固ヨリ其意義ニ於テ徑庭アルコトナシト雖モ文例ハ宜シク同一ナルヲ善トス本條モ亦タ交付ニ作ルヘシ

○九番 大給 恒 賛成

○議長 廿二番ノ修正説ニ賛成者アルヲ以テ問題トナシ廿二番ノ説ヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全員悉ク可トシタルヲ以テ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田 秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第四條 各海港即チ水先區内ニ供備スヘキ免許水先人ノ員數ハ其海港即チ水先區ノ現況ニ從フヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全員悉ク可トシタルヲ以テ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田 秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第五條 水先人ノ免狀ヲ出願スル者ハ自己ノ技業及ヒ性質殊ニ平素ノ行狀ニ係リ確實ナル履歷証書ヲ豫テ其本貫又ハ寄留地ノ地方官廳ヲ經テ内務省ヘ差出シ置キ或ハ試験開場ノ時ニ於テハ直ニ試験官ヘ差出スヘシ

起立者十四人

○議長 多數ヲ以テ本條ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田 秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第六條 水先人タル者ハ年齢二十二歳ニ滿チ少クモ一ケ年間ハ一
百噸以上ノ西洋形船ニ於テ船長若クハ一等運轉手ノ職ヲ執リシ
者若シクハ六ケ年間航海ニ從事シ其中一ケ年間ハ自今營業免許
ヲ受ケントスル水先區内ニ於テ既ニ水先見習人トナリ航海ニ從
事セルモノニ限ルヘシ但シ其水先區内ニ在ル諸港灣海峽及ヒ碇
泊場ハ勿論危險ノ場所及ヒ之ヲ避ルタメノ重立タル記標或ハ方
位又ハ潮ノ滿干潮流燈光浮標礁標ノ位置ニ悉皆通曉シ且大船ヲ
指揮シ之ヲ運轉スルノ任ニ充分適當セリト司驗官ヲ満足セシム
ルコトヲ要スヘシ

○廿二番 細川潤次郎 本條ノ末段ニ修正ヲ加ント欲ス固ヨリ瑣々タル文
字ト雖モ其關係スル所ハ蓋シ大ナラントス夫レ大船ヲ指揮シ之ヲ

運轉スルハ船將ノ任スル所ナリ水先人ト雖モ善ク大船ヲ指揮シ且
ツ之ヲ運轉スルニ耐ユル技倆ヲ具ヘタル者ニ非サレハ不可ナルハ
論ヲ待スト雖モ水先人ハ船舶ヲ嚮導スルニ止リ指揮運轉ヲ任スル
者ニハ非ルナリ是故ニ任ノ字ヲ删除シ大船ヲ指揮シテ之ヲ運轉ス
ルニ充分適當セリト云々ト作ラハ文章穩安ニシテ毫モ本條ノ精神
ヲ害セサルナリ

○十八番 河野敏鎌 賛成

○十一番 山口尙芳 賛成

○議長 廿二番ノ議ニ賛成者アルヲ以テ問題トナシ廿二番ノ議ヲ可
トスル者ヲ起立セシム

起立者十四人

○議長 多數ヲ以テ廿二番ノ議ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第七條 受験人試験ヲ受テ正シク須要ノ條件ニ叶ヒタルト試験官之ヲ認ムル時ハ其旨ヲ内務省ニ報告シテ直チニ免狀ヲ交付スヘシ但シ此免狀ハ翌年一月一日以後ハ全ク其効力ヲ有セサルモノトス

○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全員悉ク可トシタルヲ以テ本條ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第八條 免狀ノ書替ヲ請願セントスル者ハ毎年十一月一日以前其

願書ヲ内務省ヘ差出スヘシ但シ之ヲ許可シ或ハ許可セサルトハ都テ内務省ノ意見ニ因ルヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可トスル者ヲ起立セシム

起立者十四人

○議長 多數ヲ以テ本條ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第九條 免狀ヲ遺失スルモノ又ハ摩損スルモノハ其事由ヲ記シタル願書ヲ内務省ヘ差出シ書替新免狀ヲ申請クヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全員悉ク可トシタルヲ以テ本條ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第十條 水先人ハ始メテ其免狀ヲ願受ル時金拾圓又其書替毎ニ金

壹圓ノ手数料ヲ上納スヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全員悉ク可トシタルヲ以テ本條ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第十一條 水先人ノ試験ヲナス時ハ定日ヨリ少クモ十四日前其旨

ヲ和洋兩種ノ新聞紙ヲ以テ公告スヘシ此公告ニハ其免許ヲ與フ

ヘキ人數ノ限り及ヒ試験ノ場所月日ヲモ記載スヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全員悉ク可トシタルヲ以テ本條ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第十二條 試験出願人ノ履歷証書ヲ以テ充分満足ノモノト爲ル時

ハ其出願ノ順次ヲ以テ其姓名ヲ登簿シ登簿ノ順次ニ從テ之カ試

験ヲナスヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全員悉ク可トシタルヲ以テ本條ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第十三條 此規則ニ從テ水先免狀ヲ受ケタル外國人ハ其執業上ニ

限リ日本帝國內何レノ海岸ト雖モ上陸シ且其出發地へ陸路歸ルヲ得ルノ特許ヲ與フヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可トスル者ヲ起立セシム
全員悉起立

○議長 全員悉ク起立シタルヲ以テ本條ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第十四條 第三條ニ規定セル水先區内ニ於テ無免許ノ水先人船舶ヲ嚮導スルルル免許水先人ヨリ其船舶ノ嚮導ヲナサント申入レ又ハ其爲メ信號ヲナスルハ何時ニテモ免許水先人へ其職ヲ讓ルヘシ其職ヲ讓ルヲ拒ミ其船舶ヲ嚮導スルモノハ相當ノ裁判所ニ附シテ處分セシムヘシ

○廿一番 山田顯義 本條ニ修正ヲ加ヘントス無免許ノ水先人ト記載スルハ不可ナリ何トナレハ則チ無免許ノ者ハ私ノ營業ニシテ公許ノ者ニ非ス然レハ之ヲ水先人ト公稱ス可ラズ況ンヤ之ヲ法典ニ記載スルニ於テヤ若シ之ヲ法典ニ記載スルモ妨ケストセハ特許ノ權利ヲ有シタル者ト殆ント對等ノ權ヲ爭フ者ノ如ク然リ且ツ設使之ヲ爲ス者アリト裁判所ニ申告スルトキ法官ハ之ヲ何ノ法ニ問ヒ之ヲ何ノ律ニ擬スルヤ是等ノ事ハ刑法ノ問フ所ニ非ス民法ニ屬スル者ニシテ其損害ノ賠償ヲ求ムルモノナラン故ニ之ヲ修正シ無免許ノ者水先ノ業ヲナシ船舶ヲ嚮導スルトキハ免許水先人ヨリ之ヲ差留ム可シトセハ可ナリ

○議長 廿一番ノ發議ニ賛成者ナキヲ以テ之ヲ廢棄シ本條ヲ可トス

ル者ヲ起立セシム

起立者十四人

○議長 多數ヲ以テ本條ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第十五條 水先料ハ別表ニ記ス金高ニ超過スヘカラス但シ表中記載セサルモノハ其距離ノ遠近ニ隨テ船長ト水先人ノ間ニ相當ノ約束ヲ以テ定ム可シ

○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可トスル者ヲ起立セシム

起立者十四人

○議長 多數ヲ以テ本條ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第十六條 二人以上ノ免許水先人同時ニ於テ船舶ノ嚮導ヲ申入レ

又ハ其信號ヲナスルハ最初現ニ乗船シタル者其嚮導ヲ爲シ其水先料ヲ收領シ得ヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可トスル者ヲ起立セシム
起立者十四人

○議長 多數ヲ以テ本條ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第十七條 免許水先人水路嚮導専用ノ水先船ハ第十九條第一節第二節ニ示セル式ノ如ク之ヲ製シ其免狀ヲ内務省ニ願出ツヘシ内務省ハ検査ノ上其免狀ヲ與フヘシ但此免狀ハ水先人免狀同様其効一ケ年ニ限ル者トシ年々其書替ヲ願ヒ出ツヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全員悉ク可トシタルヲ以テ本條ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第十八條 各免許水先船ハ免許ヲ得タル區域内ニ於テ其水路嚮導用ノ爲ニハ港灣稅噸稅燈臺稅等ノ諸稅ヲ免スヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全員悉ク可トシタルヲ以テ本條ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第十九條 各水先船ハ左ノ徵候ヲ以テ區別スヘシ

第一 水先船ノ外部ハ總テ黑色タルヘシ

第二 船尾及ヒ大帆ノ上部ニ於テ國字及ヒ羅馬字若クハ羅馬字ノミニテ免許水先船ノ文字並ニ其番號ヲ明瞭ニ書スヘシ

第三 免許水先船ニ免許水先人ノ乗込アル時ハ桅上或ハ船首或ハ旗竿若クハ他ノ認メ易キ場所ニ於テ日出ヨリ日没マテ水先旗ヲ翻揚スヘシ但水先旗ハ明治十年一月甲第一號海軍省布達ニ照準スヘシ

第四 免許水先人ノ乗込ミタル免許水先船ハ夜間其停留場ニ碇泊中モ亦運用中ニ於ケルモ地平ノ各所ヨリ認メ易キ桅上ニ於テ日没ヨリ日出マテ透明ノ白燈ヲ掲ケ又十五分時毎ニ閃光ヲ發スヘシ而シテ總テ其他ノ時間ニ於テハ風帆船

同様尋常ノ舷燈ヲ掲クヘシ

○十七番佐野常民 本條ニ瑣細ノ文字ヲ修正セントス本條第二項ノ若クハ羅馬字ノミノ八字ヲ删除シ國字及ヒ羅馬字ニテ免許水先船ノ文字云ヤト作ルヲ可トス原ヨリ我邦人ノ標識ノミナレハ之レニ我邦字ノミヲ用テ可ナリト雖ヒ外人ノ便宜ヲモ圖ル爲メナレハ羅馬字ヲモ記セサルヘカラス然レモ羅馬字ノミヲ用ルトキハ外人ノ便ノミニ供スルニ似テ體裁ニ於テモ不可ナリ斷然之ヲ削ルニ如ス

○九番大給恒 賛成

○議長 十七番ノ發議ニ賛成者アルヲ以テ問題トナシ十七番ノ議ヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全員悉ク可トシタルヲ以テ十七番ノ修正ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第二十條 日中ニ於テ左ニ記載スル信號ヲ表示スル時ハ水先ヲ要求スルノ信號ト認ムヘシ

第一 前橋ニ於テ其船ノ船首旗(英語ヨリ)又ハ國旗ヲ掲揚スルコト

第二 萬國普通ノ水先信號P Tノ符字ヲ掲示スルコト

夜間ニ於テ左ノ信號ヲ同時若クハ別時ニ表示スル時ハ水先ヲ要求スルノ信號ト見認ムヘシ

第一 十五分毎ニ青燈ヲ掲出スルコト

第二 須臾ノ間歇ヲ以テ凡ソ一分時ノ間透明ナル白燈ヲ上甲

板ノ絃部ニ於テ射發スルコ

○廿二番 細川潤次郎 瑣々タル文字上ノ修正ヲ爲ントス本條ノ前段ニハ認ム可シトアリ而シテ其後段ニハ見認ム可シトアリ後ノ見ノ字恐クハ衍文ナラン本按中他ノ條款ニ在ルモノモ亦タ皆ナ認ノ一字ニ止マレリ然ラハ本條後段ノ見ノ字ヲ删除シ文章ヲ齊整同一ナラシム可シ

○十三番 東久世通禧 賛成

○議長 廿二番ノ發議ニ賛成者アルヲ以テ問題トナシ廿二番ノ議ヲ可トスル者ヲ起立セシム

起立者十四人

○議長 多數ヲ以テ廿二番ノ議ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第二十一條 各免許水先人へハ執業中其免狀ハ勿論此規則ノ寫ヲ

一通ツ、交付スヘシ故ニ其筋ノ官吏又ハ雇主ヨリ其書類ノ閱覽

ヲ要スル時ハ直ニ之ヲ示スヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可トスル者ヲ起立セシム
全員悉起立

○議長 全員悉ク可トシタルヲ以テ本條ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第二十二條 凡テ免狀ハ他人ニ貸與又ハ讓與スヘカラス

○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全員悉ク可トシタルヲ以テ本條ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第二十三條 内務省ニ於テ免許水先人此規則ニ背キ或ハ其本分ノ

職務ニ堪サルカ若クハ亂醉又ハ不行跡アルカ其職務ヲ執ルコトヲ

嫌ヒ若クハ之ヲ怠リタルコトアリト思惟スル時ハ其執業ヲ暫時停

住シ或ハ其免狀ヲ取上ケ又ハ其犯情ニ隨ヒ相當ノ裁判所ニ附シ

テ之ヲ處分セシムヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全員悉ク可トシタルヲ以テ本條ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ表ヲ朗讀ス

水先料一覽表

第 壹 東 京 灣 ノ 部

發	地 著	地 風帆船及ヒ汽船水先料	標
海上ヨリ	横濱港迄	金三圓	水脚「フート」ニ付
横濱港ヨリ	海上迄	金三圓	右同斷ニ付
海上ヨリ	品川碇泊所迄	金四圓	右同斷ニ付
品川碇泊所ヨリ	海上迄	金四圓	右同斷ニ付
横濱港ヨリ	品川碇泊所迄	金貳拾五圓	一航海ニ付
品川碇泊所ヨリ	横濱港迄	金貳拾五圓	右同斷ニ付
横濱港ヨリ	横須賀港迄	金貳拾五圓	右同斷ニ付
横須賀港ヨリ	横濱港迄	金貳拾五圓	右同斷ニ付
横須賀港ヨリ	品川碇泊所迄	金四拾圓	右同斷ニ付
品川碇泊所ヨリ	横須賀港迄	金四拾圓	右同斷ニ付

註

○議長 全員悉ク可トシタルヲ以テ本條ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第二十三條 内務省ニ於テ免許水先人此規則ニ背キ或ハ其本分ノ職務ニ堪サルカ若クハ亂醉又ハ不行跡アルカ其職務ヲ執ルコトヲ嫌ヒ若クハ之ヲ怠リタルコトアリト思惟スル時ハ其執業ヲ暫時停止シ或ハ其免狀ヲ取上ケ又ハ其犯情ニ隨ヒ相當ノ裁判所ニ附シテ之ヲ處分セシムヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可トスル者ヲ起立セシム

○議長 發議ナキヲ以テ本案ヲ可トスル者ヲ起立セシム
起立者十四人

○議長 多數ヲ以テ本案ニ決シ其次ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ表ヲ朗讀ス

第 貳 紀伊海峡及和泉灘ノ部

發	地著	地	風帆船及ヒ汽船水先料	標	註
海上ヨリ	兵庫神戸或ハ大坂碇泊所迄	海上迄	金三圓	水脚一「フー」トニ付	
兵庫神戸或ハ大坂碇泊所ヨリ	海上迄	海上迄	金三圓	右同斷ニ付	
兵庫或ハ神戸港ヨリ	大坂碇泊所迄	兵庫或ハ神戸港迄	金壹圓五拾錢	右同斷ニ付	
大坂碇泊所ヨリ	兵庫或ハ神戸港迄	兵庫或ハ神戸港迄	金壹圓五拾錢	右同斷ニ付	
大坂碇泊所ヨリ	神戸ヲ經テ海上迄	神戸ヲ經テ海上迄	金四圓	右同斷ニ付	

○議長 發議ナキヲ以テ本按ヲ可トスル者ヲ起立セシム
全員悉起立

○議長 全員悉ク可トシタルヲ以テ本按ニ決シ其次ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ表ヲ朗讀ス

第 三 長崎港ノ部

發	地著	地	風帆船及ヒ汽船水先料	標	註
海上ヨリ	長崎港迄	長崎港迄	金貳圓	水脚一「フー」トニ付	
長崎港ヨリ	海上迄	海上迄	金壹圓五拾錢	右同斷ニ付	

○議長 發議ナキヲ以テ本按ヲ可トスル者ヲ起立セシム
 全員悉起立

○議長 全員悉ク可トシタルヲ以テ本按ニ決シ其次ニ移ラシム

○書記官 戸田 秋成 左ノ表ヲ朗讀ス

第四 津輕海峽ノ部

發	地著	地	風帆船水先料	漕船水先料	標
海上ヨリ	函館或ハ青森繫船場迄	函館或ハ青森繫船場迄	金貳圓五拾錢	金貳圓	水脚一「フート」ニ付
函館或ハ青森繫船場ヨリ	海上迄	海上迄	金貳圓五拾錢	金貳圓	右同斷ニ付

全員悉起立

○議長 全員悉ク起立シタルヲ以テ本按ニ決シ其次ニ移ラシム

○書記官 戸田 秋成 左ノ表ヲ朗讀ス

第五 沿海ノ部

發	著	地	噸	數	風帆船水先料	標
東京灣ヨリ兵庫神戸或ハ大坂迄又兵庫神戸或ハ大坂ヨリ東京灣迄			三百噸以下二百噸迄	金八拾圓		
兵庫神戸或ハ大坂ヨリ			三百噸以上五百五十噸迄	金百圓		
下ノ關或ハ長崎迄又下ノ關或ハ長崎ヨリ兵庫			五百五十噸以上七百五十噸迄	金百貳拾圓		一航海ニ付
神戸或ハ大坂迄			七百五十噸以上千噸迄	金百三拾五圓		
東京灣ヨリ直航下ノ關			千噸以上	金百五拾圓		
或ハ長崎迄又下ノ關或			二百噸以下二百噸迄	金百貳拾圓		
			三百噸以上五百五十噸迄	金百五拾圓		

註

○議長 發議ナキヲ以テ本按ヲ可トスル者ヲ起立セシム

○十五番 全員悉く起立

○議長 全員悉く起立シタルヲ以テ本按ニ決シ其次ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ表ヲ朗讀ス

第一 此表中水脚ト稱スルモノハ本船ノ最モ深キ水脚ヲ云フ

○第二 水先人ノ嚮導ニ因リ繫泊スル船舶ハ汽船帆船ニ係ラス三

百噸以下ハ拾圓三百噸以上ハ水脚一ツ―トニ付壹圓ノ割

ヲ以テ繫泊案内料ヲ拂ハシム

第三 此表中ニ定メタル沿海水先料ハ水先人ノ歸郷旅費ヲ包含

スルモノトス

第四 此表中ニ記載セサル沿海水先料ハ船長ト水先人ノ示談ヲ

以テ取極ムヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本按ヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉く起立

○議長 全員悉く起立シタルヲ以テ本按ニ決シ且第二讀會ノ畢リタ

ル旨ヲ告ク

○十八番 河野敏録 本按ハ急施ヲ要スル事件ニ非ル可シト雖下付以降

既ニ數句ヲ經過シタルヲ以テ本日直チニ第三讀會ヲ開クヲ可トス

且ツ其修正ハ瑣々タル文字上ノ變換ニ過キサレハ全篇ヲ聯合シテ

可否ヲ決セラレシヲ企望ス

○十五番 柳原前光 賛成

○十七番 佐野常民 第三讀會ヲ開クヘキヤ否ヤノ決議ニ先タチ本官カ所

見ヲ開陳ス可シ原按下付ノ後チ修正ス可キ事項アルヲ以テ數旬間
ヲ經過セリト雖ヒ急施ヲ要ス可キ事件ニ非サレハ讀會規則ノ成文
ニ遵ヒ尙考慮スルノ暇日數ヲ與ヘテ可ナリ既ニ本按第十四條ニ於
テ其原按ニハ貳百圓以内ノ罰金ヲ科ス可シト記載セシト雖ヒ外國
人ニ對シテ果シテ行ル可キヤ否ヤ未タ之ヲ知ル可ラス是ヲ以テ本
按ノ如ク之ヲ修正セシナリ然レトモ尙ヲ廿一番ノ論說ヲ來セシ如
ク疑ヲ其間ニ容ル、モノナシトモ保ツ可ラス鄭重緩密ニ考慮ヲ盡
シ一點ノ疵瑕ナキニ非サレハ不可ナリ願クハ第三讀會ハ他日ニ開
カレンコヲ企望ス

○議長 十八番建議セシ所十七番ヨリ反對ノ說ヲ出セシヲ以テ十八
番ト十七番ト對比シ其ノ孰レヲ可トスルヤ否ヤト問テ十八番ノ建

議ヲ可トスル者ヲ起立セシム

起立者五人

○議長 少數ヲ以テ十八番ノ建議ヲ廢棄シ十七番ノ議ニ決シ第三讀
會ハ他日其會期ヲ報ス可シト告ケ解散セシム

午前第十一時二十五分開場

議ヲ可トスル者ヲ起立セシム
起立者五人
○議長 少數ヲ以テ十八番ノ建議ヲ廢棄シ十七番ノ議ニ決シ第三讀
會ハ他日其會期ヲ報ス可シト告ケ解散セシム
午前第十一時二十五分開場

元老院會議筆記明治十一年十一月七日
 議長 有栖川 熾仁
 出席議官
 一番 黑田 清綱
 二番 秋月 種樹
 三番 岩下 方平
 四番 前島 密
 五番 伊丹 重賢
 六番 大給 恒
 七番 山口 尙芳
 八番
 九番
 十番
 十一番

元老院會議筆記明治十一年十一月七日

○第一百十二號議按 西洋形船水先免狀規 第三讀會

議長 有栖川 熾仁

出席議官

- 一番 黑田 清綱
- 二番 秋月 種樹
- 三番 岩下 方平
- 四番 前島 密
- 五番 伊丹 重賢
- 六番 大給 恒
- 七番 山口 尙芳
- 八番
- 九番
- 十番
- 十一番

○普請官
 全員悉起立

十二番	大久保一翁
十三番	東久世通禱
十五番	柳原 前光
十六番	河田 景與
十七番	佐野 常民
十八番	河野 敏鍊
十九番	伊集院兼寛
廿一番	山田 顯義
廿二番	細川潤次郎
廿五番	穴戸 璣
廿七番	津田 眞道

午前第十時三十八分開場

○議長 本日ハ第百十二號議按ノ第三讀會ヲ開ク該按ハ第十四條第二十一條第二十二條第二十三條ヲ除クノ外ハ曩キニ第二讀會ニ於テ僅々タル文字ノ修正ニ止リ異議ナク決議シタル者ナレハ本按布告按ヨリ第十三條ニ至ル迄ヲ一段トシ第十五條ヨリ第二十條ニ至ルマテヲ一段トシテ決議ヲ取ラント欲ス然リト雖モ變則ナルヲ以テ之ヲ衆議ニ決セント謂テ聯帶シテ決議スルヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○書記官 戸田 秋成 左ノ條々ヲ聯讀ス
 布告案

明治九年^{十二月} 第五百五十四號布告西洋形船水先免狀規則別冊ノ通改
正候條此旨布告候事

西洋形船水先免狀規則

第一條 明治十二年一月一日ヨリ以後下ニ記載スル海港即チ水先
區ニ於テ西洋形船舶ノ水先人トナリ營業スル者及ヒ西洋形船舶
ノ水先船トシテ使用スル諸船ヘハ此規則ニ從テ發行スル免狀ヲ
交付スヘシ

第二條 水先ノ事業ニ關係シタル諸般ノ事務ハ内務省ノ統轄ニ屬
シ同省ニ於テハ充分其筋ニ明カナル者ヲ撰ミ此規則ニ準據シテ
各試驗出願人ヲ試驗スヘシ

第三條 免狀ハ左ニ記載ノ海港即チ水先區ニ於ケル水先人ニ交付
シ且現況ニ從テ其他ノ地方ニ於ケル水先人ニ交付スヘシ

第一 東京灣

即チ伊豆國石廊岬ヨリ同國神子本島及ヒ大島波浮
港ヲ通過シテ安房國野島岬ニ至ル一線ヲ以テ疆界
線トス

第二 和泉灘

即チ紀伊國宮岬ヨリ淡路國鹽崎ノ仁頃ニ至ル一線
ヲ以テ其南界ヲ畫シ北ハ淡路國極北ノ部ニ於ケル
東經百三十五度ノ所ニ於テ畫シタル一線ヲ以テ疆
界線トス

第三 和泉灘ヨリ瀬戸内ヲ通過シテ長崎迄

第四 長崎港

即チ肥前國福田村ヨリ同國伊王島ノ極北ヲ通過シ
同國沖島及ヒ香焼島ヲ經テ同國深堀ニ至ル一線ヲ
以テ疆界線トス

第五 津輕海峽

即チ陸奥國尻矢崎ヨリ渡島國惠山崎ニ至ル一線ヲ
以テ其東界ヲ畫シ陸奥國大間村ヨリ同國龍飛崎ニ
至ル一線ヲ以テ其南界ヲ畫シ同國龍飛崎ヨリ渡島
國白神崎ニ至ル一線ヲ以テ其西界トス

第四條 各海港即チ水先區内ニ供備スヘキ免許水先人ノ員數ハ其

海港即チ水先區ノ現況ニ從フヘシ

第五條 水先人ノ免狀ヲ出願スル者ハ自己ノ技業及ヒ性質殊ニ平
素ノ行狀ニ係リ確實ナル履歷證書ヲ豫テ其本貫又ハ寄留地ノ地
方官廳ヲ經テ内務省ヘ差出シ置キ或ハ試験開場ノ時ニ於テハ直
ニ試験官ヘ差出スヘシ

第六條 水先人タル者ハ年齡二十二歳ニ滿チ少クモ一ケ年間ハ一
百噸以上ノ西洋形船ニ於テ船長若クハ一等運轉手ノ職ヲ執リシ
者若クハ六ケ年間航海ニ從事シ其中一ケ年間ハ自今營業免許ヲ
受ケントスル水先區内ニ於テ既ニ水先見習人トナリ航海ニ從事
セルモノニ限ルヘシ但シ其水先區内ニ在ル諸港灣海峽及ヒ碇泊
場ハ勿論危險ノ場所及ヒ之ヲ避ルタメノ重立タル記標或ハ方位

又ハ潮ノ滿干潮流燈光浮標礁標ノ位置ニ悉皆通曉シ且大船ヲ指揮シテ之ヲ運轉スルニ充分適當セリト司驗官ヲ満足セシムルヲ要スヘシ

第七條 受験人試験ヲ受テ正シク須要ノ條件ニ叶ヒタルト試験官之ヲ認ムル時ハ其旨ヲ内務省ニ報告シテ直チニ免狀ヲ交付スヘシ但シ此免狀ハ翌年一月一日以後ハ全ク其効力ヲ有セサルモノトス

第八條 免狀ノ書替ヲ請願セントスル者ハ毎年十一月一日以前其願書ヲ内務省ヘ差出スヘシ但シ之ヲ許可シ或ハ許可セサルトハ都テ内務省ノ意見ニ因ルヘシ

第九條 免狀ヲ遺失スルモノ又ハ摩損スルモノハ其事由ヲ記シタ

ル願書ヲ内務省ヘ差出シ書替新免狀ヲ申請クヘシ

第十條 水先人ハ始メテ其免狀ヲ願受ル時金拾圓又其書替毎ニ金壹圓ノ手数料ヲ上納スヘシ

第十一條 水先人ノ試験ヲナス時ハ定日ヨリ少クモ十四日前其旨ヲ和洋兩種ノ新聞紙ヲ以テ公告スヘシ此公告ニハ其免許ヲ與フヘキ人數ノ限り及ヒ試験ノ場所月日ヲモ記載スヘシ

第十二條 試験出願人ノ履歷證書ヲ以テ充分満足ノモノト爲ル時ハ其出願ノ順次ヲ以テ其姓名ヲ登簿シ登簿ノ順次ニ從テ之カ試験ヲナスヘシ

第十三條 此規則ニ從テ水先免狀ヲ受ケタル外國人ハ其執業上ニ限り日本帝國内何レノ海岸ト雖モ上陸シ且其出發地ヘ陸路歸ル

ヲ得ルノ特許ヲ與フヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ確定ノ決議ヲ取ル可シト告ケ本按ヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全員悉ク起立シタルヲ以テ本按ニ確定シ次條ニ移ラシム且告テ曰ク該條ニ十七番修正ノ按アリ既ニ五名ノ賛成者アルヲ以テ之ヲ各議官ニ報告セリ故ニ書記官ヲシテ兩按ヲ併テ朗讀セシムヘシト

○書記官

戸田秋成

左ノ條ヲ朗讀ス

第十四條 第三條ニ規定セル水先區内ニ於テ無免許ノ水先人船舶ヲ嚮導スルハ免許水先人ヨリ其船舶ノ嚮導ヲナサント申入レ又

ハ其爲メ信號ヲナスハ何時ニテモ免許水先人へ其職ヲ讓ルヘシ其職ヲ讓ルヲ拒ミ其船舶ヲ嚮導スルモノハ相當ノ裁判所ニ附シテ處分セシムヘシ

修正案

第十四條 第三條ニ規定セル水先區内ニ於テ無免許ノ水先人船舶ヲ嚮導スルハ免許水先人ヨリ其船舶ノ嚮導ヲナサント申入レ又ハ其爲メ信號ヲナスハ何時ニテモ免許水先人へ其職ヲ讓ルヘシ其職ヲ讓ルヲ拒ミ仍ホ其船舶ヲ嚮導シ或ハ免許水先人ト詐稱シ正當ナラサル免狀ヲ用ユル者ハ五拾圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ

○十七番 佐野常民 修正說ニ成規ノ賛成者アルヲ以テ問題トナルヲ得タリ付テハ決議ノ前ニ於テ別ニ建議スル所アラントス成規ニ據依ス

レハ第三讀會ニ於テ修正按ヲ提出スルコトアレハ五人以上ノ賛成者ヲ得テ問題トナルヲ得ルト雖モ本按ハ之ニ異ナリ嚮キニ第二讀會ニ於テ廿一番發議セシ如ク不完全ナル所アルニヨリ再ヒ此修正按ヲ草シ既ニ成規ノ賛成者アルハ各議官ノ熟知セラル、所ナリ彼突然會場ニ於テ提出シタル修正按ト頗ル其趣ヲ異ニセリ因テ其可否ハ直チニ之レヲ確定ノ決議トシ他條モ亦タ之レニ倣ハンコトヲ請フ

○十八番 河野 敏謙 賛成

○議長 十七番ノ說ヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全員悉ク起立シタルヲ以テ十七番ノ建議ニ決スト告ク

○十七番 佐野 常民 本條ヲ修正セシハ己ムヲ得サル情故アルニ出タル理

由ヲ概陳ス可シ水先船ノ規則ヲ犯スモノ特ニ日本人ノミニ止ラス外國人モ亦タ之レヲ犯スコトアラン然レトモ我法律未タ以テ彼ニ及スコトヲ得ス此レ原按ニ相當ノ裁判所ニ附シテ處分セシムト記載セシ所以ナラン然リト雖モ單行ノ法律トシテ之ヲ奉行セシムルニハ相當ノ裁判所ニ附シテ處分セシムヘシトノミニテハ裁判所ニ於テモ擬律ノ際正條ノ據ルナキニ苦マン故ニ本按ノ如ク修正セシナリ尤此ノ如ク修正スルキハ外國人ト雖モ直ニ處分スルコトヲ得ルト謂フニハ非ス若シ外國人ニシテ此法則ヲ犯カセシトキハ我國人民ノ犯則ハ則チ本條ノ刑ニ該ル旨ヲ申陳シテ之ヲ彼領事官ニ交付シ彼ノ處分ニ任スルノ外他ナシト信スルナリ且ツ罰金五拾圓以内トセシハ米國ノ例ヲ酌量シタルモノナリ歐洲各國ノ例ニハ罰金ヲ科ス

ル極メテ多キニ過キ我國ノ程度ニ適セサレハ之ヲ據用スルニ足ラ
ス且ツ該免許料タルヤ僅ニ金拾圓ヲ納ムルニ過キス是ヲ以テ彼此
ヲ斟酌シテ金五拾圓以内ニ止メ亦以テ適當ノ額ナルヘシト信ス聞
クカ如クナレハ米國政府ハ我國ノ法律ニテ彼レト其軌ヲ同スルモ
ノハ宜シク我國ノ法律ヲ用ユヘシト若シ果シテ然ラハ逐次内ヨリ
外ニ及ホシ漸々我法律ヲ遵奉セシムルノ端緒ヲ開カン是レ本條ヲ
修正セシ所以ノ概畧ナリ

○議長 發議ナキヲ認メ十七番修正說ヲ可トスル者ヲ起立セシム
全員悉起立

○議長 全員悉ク起立シタルヲ以テ十七番ノ修正ニ確定シ次條ニ移
ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條々ヲ聯讀ス

第十五條 水先料ハ別表ニ記ス金高二超過スヘカラス但シ表中記
載セサルモノハ其距離ノ遠近ニ隨テ船長ト水先人ノ間ニ相當ノ
約束ヲ以テ定ム可シ

第十六條 二人以上ノ免許水先人同時ニ於テ船舶ノ嚮導ヲ申入レ
又ハ其信號ヲナスルハ最初現ニ乗船シタル者其嚮導ヲ爲シ其水
先料ヲ收領シ得ヘシ

第十七條 免許水先人水路嚮導専用ノ水先船ハ第十九條第一節第
二節ニ示セル式ノ如ク之ヲ製シ其免狀ヲ内務省ニ願出ツヘシ内
務省ハ検査ノ上其免狀ヲ與フヘシ但此免狀ハ水先人免狀同様其
効一ケ年ニ限ル者トシ年々其書替ヲ願ヒ出ツヘシ

第十八條 各免許水先船ハ免許ヲ得タル區域内ニ於テ其水路嚮導用ハ爲ニハ港灣稅噸稅燈臺稅等ノ諸稅ヲ免スヘシ

第十九條 各水先船ハ左ノ徵候ヲ以テ區別スヘシ

第一 水先船ノ外部ハ都テ黑色タルヘシ

第二 船尾及ヒ大帆ノ上部ニ於テ國字及ヒ羅馬字ニテ免許水

先船ノ文字並ニ其番號ヲ明瞭ニ書スヘシ

第三 免許水先船ニ免許水先人ノ乗込アル時ハ桅上或ハ船首

或ハ旗竿若クハ他ノ認メ易キ場所ニ於テ日出ヨリ日沒

マテ水先旗ヲ翻揚スヘシ但水先旗ハ明治十年一月甲第

壹號海軍省布達ニ照準スヘシ

第四 免許水先人ノ乗込ミタル免許水先船ハ夜間其停留場ニ

碇泊中モ亦運用中ニ於ケル凡地平ノ各所ヨリ認メ易キ
桅上ニ於テ日沒ヨリ日出マテ透明ノ白燈ヲ掲ケ又十五
分時毎ニ閃光ヲ發スヘシ而シテ總テ其他ノ時間ニ於テ
ハ風帆船同様尋常ノ舷燈ヲ掲クヘシ

第二十條 日中ニ於テ左ニ記載スル信號ヲ表示スル時ハ水先ヲ要

求スルノ信號ト認ムヘシ

第一 前橋ニ於テ其船ノ船首旗(英語ヨ)又ハ國旗ヲ掲揚スル

第二 萬國普通ノ水先信號PTノ符字ヲ掲示スル

夜間ニ於テ左ノ信號ヲ同時若クハ別時ニ表示スル時ハ水先ヲ要
求スルノ信號ト認ムヘシ

第一 十五分時毎ニ青燈ヲ掲出スル

第二 須臾ノ間歇ヲ以テ凡ソ一分時ノ間透明ナル白燈ヲ上甲板ノ舷部ニ於テ射發スルコト

○議長 發議ナキヲ以テ本按ヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全員悉ク起立シタルヲ以テ本按ニ確定シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第二十一條 各免許水先人へハ執業中其免狀ハ勿論此規則ノ寫ヲ

一通ツ、交付スヘシ故ニ其筋ノ官吏又ハ雇主ヨリ其書類ノ閱覽ヲ要スル時ハ直ニ之ヲ示スヘシ

修正按 十七番

第二十一條 各免許水先人へハ其免狀ハ勿論此規則ノ寫ヲ一通ツ

ツ交付スヘシ故ニ其筋ノ官吏又ハ雇主ヨリ其書類ノ閱覽ヲ要スル時ハ直ニ之ヲ示スヘシ若シ之ヲ拒ム時ハ内務省ニ於テ其執業ヲ暫時停止シ或ハ其免狀ヲ取上クヘシ

○十七番 佐野常民 第十四條ノ原文ヲ修正シテ罰金ノ正條ヲ明ラカニ記

載セリ然レハ本條ノ如キハ裁判所ニ求刑スルヲ須ヰス直チニ内務省ニ於テ其執業ヲ停止シ或ハ其免許狀ヲ取上ルニ止メテ足レリトス然レハ則チ之ヲ内務省ニ於テ處分スルコトヲ明記セサレハ不可ナリ此ヲ以テ斯ノ如ク之ヲ修正シタルナリ

○議長 發議ナキヲ認メ十七番ノ修正ヲ可トスル者ヲ起立セシム
全員悉起立

○議長 全員悉ク起立シタルヲ以テ十七番ノ修正ニ確定シ次條ニ移

ラシム

○書記官戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第二十二條 凡テ免狀ハ他人ニ貸與又ハ讓與スヘカラス

修正按十七番

第二十二條 此免狀ハ他人ニ貸與シ或ハ讓與スヘカラス若シ貸與

シ或ハ讓與スル時ハ内務省ニ於テ其免狀ヲ取上ケヘシ

○十七番佐野常民 本條ヲ修正スル理由ハ前條ト同一ノ精神ナルヲ以テ

更ニ喋々饒舌ヲ弄セス各位其意ヲ領セラレンコトヲ乞フ

○議長 發議ナキヲ認メ十七番ノ修正ヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全員悉ク起立シタルヲ以テ十七番ノ修正ニ確定シ次條ニ移

ラシム

○書記官戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第二十三條 内務省ニ於テ免許水先人此規則ニ背キ或ハ其本分ノ

職務ニ堪サルカ若クハ亂醉又ハ不行跡アルカ其職務ヲ執ルコトヲ

嫌ヒ若クハ之ヲ怠リタルコトアリト思惟スル時ハ其執業ヲ暫時停

住シ或ハ其免狀ヲ取上ケ又ハ其犯情ニ隨ヒ相當ノ裁判所ニ附シ

テ之ヲ處分セシムヘシ

修正按十七番

第二十三條 内務省ニ於テ免許水先人其本分ノ職務ニ堪サルカ若

クハ亂醉又ハ不行跡アルカ或ハ故ナクシテ其職務ヲ執ルコトヲ嫌

ヒ若クハ之ヲ怠リタルコトアリト思惟スル時ハ同省ヨリ吏員ニ命

シテ之ヲ審問セシメ其情狀ニ隨ヒ其執業ヲ停止シ或ハ其免狀ヲ
取上クヘシ

○十七番 佐野常民 前條々既ニ内務省ノ處分ニ販スレハ本條ノ事モ亦内
務省ノ處分ニ販セサルヘカラス故ニ如此修正セシナリ

○議長 發議ナキヲ認メ十七番ノ修正ヲ可トスル者ヲ起立セシム
起立者十七人

○議長 多數ヲ以テ十七番ノ修正ニ確定シ水先料一覽表ヲ可トスル
者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全員悉ク起立シタルヲ以テ本按ニ決シ例ニ從ヒ決議ノ旨ヲ
上奏ス可シト告ケ散會セシム

午前第十一時二十五分開場

元老院會議筆記明治十一年十月四日

○第一百十三號議案

內國船難破及漂流物取
扱規則増加ノ儀布告案 檢視會

議長 有栖川
熾仁

出席議官

- | | | |
|-----|-----|----|
| 一番 | 黒田 | 清綱 |
| 二番 | 秋月 | 種樹 |
| 三番 | 水本 | 成美 |
| 六番 | 岩下 | 方平 |
| 九番 | 大給 | 恒 |
| 十番 | 中島 | 信行 |
| 十二番 | 大久保 | 一翁 |

十三番	東久世通禧
十四番	田中不二齋
十五番	柳原 前光
十六番	河田 景與
十八番	河野 敏鎌
十九番	伊集院兼寛
二十番	津田 出
廿一番	山田 顯義
廿二番	細川潤次郎
廿三番	楠田 英世
廿五番	宍戸 璣

午前第十時開場

○議長 本日第百十三號議案ノ檢視會ヲ開キ畢テ後チ第百十一號議案ノ第二讀會ヲ開クニ依リ例ニ遵テ發言ス可シト述フ

○書記官 戸田秋成 左ノ議案ヲ朗讀ス

布告按

明治八年^四月第六十六號布告内國船難破及漂流物取扱規則中左ノ通增加候條此旨布告候事

第三十八條 前條ノ場合ニオイテ取揚タル材木巨大ニシテ領置ニ

不便ナルモノハ官之ヲ公賣シ其代價ヲ以テ現物ト看做シ材主ノ有無ニ從ヒ處分スヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本案ヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 本案ハ例規ノ如ク上奏シ且ツ是ヨリ第百十一號議案ノ第二讀會ヲ開ク可シト述フ

第百十一號議案第二讀會筆記ハ載セテ別冊ニアリ

元老院會議筆記明治十一年十月七日

○第百十四號議案 違式註違條例
中改正ノ儀 第一讀會第二讀會及第三讀會

議長 河野敏錄
代理

出席議員

- | | | |
|----|----|----|
| 一番 | 黑田 | 清綱 |
| 二番 | 秋月 | 種樹 |
| 三番 | 水本 | 成美 |
| 五番 | 福羽 | 美靜 |
| 六番 | 岩下 | 方平 |
| 八番 | 伊丹 | 重賢 |
| 九番 | 大給 | 恒 |

十番	中島 信行
十二番	大久保一翁
十三番	東久世通禧
十四番	田中不二磨
十五番	柳原 前光
十六番	河田 景與
十七番	佐野 常民
十八番	河野 敏鍊
十九番	伊集院兼寛
廿一番	山田 顯義
廿二番	細川潤次郎

廿五番	宍戸 璣
廿六番	齋藤 利行
廿七番	津田 眞道

内閣委員番外 太政官權大書記官村田 保

午前第十時開場

○議長 本日第百十四號議案ノ第一讀會ヲ開クニ依リ書記官朗讀ノ後テ例規ニ遵ヒ發議ス可ト演フ

○書記官戸田秋成 左ノ議案ヲ朗讀ス

違式註違條例中改正ノ儀布告按

違式註違條例中贖金ヲ科料ト改メ同條例第三條左ノ通改正候條

此旨布告候事

第三條 違式註違ヲ犯シ其科料ヲ出スノ資力ナキ者若クハ之

ヲ出スコヲ肯ンセサル者ハ換ヘテ拘留ニ處スルコト左ノ如シ

違式 拘留 五日ヨリ少カラス
十日ヨリ多カラス

註違 拘留 半日ヨリ少カラス
四日ヨリ多カラス

○外番保村田 本案改正ヲ要スル所以ヲ概述ス可シ明治六年七月第
二百五十六號ヲ以テ始メテ違式註違條例ヲ發令セラレ同九年第百
十七號ヲ以テ該條例ノ第三條ヲ改正シテ違式懲役八日ヨリ少カラ
ス十五日ヨリ多カラス註違拘留半日ヨリ少カラス七日ヨリ多カラ
ス但シ拘留ノ罪ト雖モ適宜懲役ニ換ユルコトアルヘシト掲載セラレ
タリ然レトモ該犯ノ如キハ極メテ輕科微罪ナレハ僅々タル贖金ヲ

徴スルニ止マルモノトス然ルニ其無力者ハ之ヲ懲役ニ實決スト言
フニ至テハ之ヲ過嚴ト言ハサルヲ得ス現今刑律ヲ改良シ主トシテ
寛宥ノ典ヲ施行スルノ秋ニ際シ特ニ舊時ノ嚴酷法ヲ存スルハ輕重
其宜キヲ失フノミナラス盛世ノ累タルヲ免レス此ヲ以テ贖金ヲ出
スノ資力ナキ者之ヲ懲役ニ實決スルヲ改メ拘留ニ換ヘタルナリ又
タ該條例ニ稱スル贖金ヲ科料ノ字面ニ換ヘタル所以ハ贖ハ本刑ノ
罪ヲ贖フノ稱ナリ既ニ懲役ノ過嚴ヲ改良スルトキハ從テ此字面モ
亦タ之ヲ改メサル可ラス故ニ科料ノ字面ニ改メタルナリ各位此意
ヲ了シ速カニ決議アラントコト乞フ

○廿二番細川潤次郎 本案ヲ改正スルノ大意ハ本官之ヲ可認ス然レトモ
作語下字ニ於テ穩當妥貼ヲ欠クモノ、如シ本官ハ第二讀會ヲ待テ

修正ノ説ヲ提出ス可シ

○議長 發議ナキヲ認メ第一讀會ハ畢リタリト告ク

○外一番保村田 本案ハ單簡ナル法案ナレハ引續キ第二讀會ヲ開カレ

ンコヲ請求ス

○議長 委員ヨリ引續キ第二讀會ヲ開カンコヲ請求シタルヲ以テ引
續キ開クヲ可トスル者ヲ起立セシム

起立者十九人

○議長 多數ヲ以テ第二讀會ヲ開クニ決シ書記官ヲシテ議案ヲ朗讀
セシム

○書記官 戸田秋成 左ノ議案ヲ朗讀ス

違式註違條例中改正ノ儀布告案

違式註違條例中贖金ヲ科料ト改メ同條例第三條左ノ通改正候條
此旨布告候事

第三條 違式註違ヲ犯シ其科料ヲ出スノ資力ナキ者若クハ之
ヲ出スコヲ肯ンセサル者ハ換ヘテ拘留ニ處スルコト左ノ如シ

違式 拘留 五日ヨリ少カラス

註違 拘留 半日ヨリ少カラス

○廿二番 細川潤次郎 前ニ第一讀會ニ於テ字句ノ修正ヲ欲スル端緒ヲ開
陳セリ本案ハ原條例ト其文例ヲ異ニスルヲ不可トスルノミナラス
科料ヲ出スノ資力ナキ者ノ句ハ頗ル冗長ニシテ簡潔ナラス故ニ註
違ノ下三ノ罪ノ二字ヲ加ヘ(其科料ヲ出スノ)ノ七字ヲ刪除シ(若ク

ハ之ノ四字ヲ改メ(及ヒ科料)ノ字ニ作リ(換ヘテ)ノ三字ヲ删除シ違式註違ノ罪ヲ犯シ資力ナキ者及ヒ科料ヲ出スコトヲ肯セサル者ハ拘留ニ處スルコト左ノ如シトセハ字句上稍ヤ簡明トナリ原條例ノ文例ト同軌ナラン若シ賛成者ヲ得テ問題トナルコトヲ得ハ幸甚ナリ

○十番 中島 信行 賛成

○九番 大給 恒 本按ノ主義ニ於テ間然スル所ナシ尙ホ廿二番ノ修正ヲ加ヘハ殆ント錦上花ヲ添ルカ如シ本官之ヲ賛成ス

○議長 廿二番ノ發議ニ賛成者アルヲ以テ問題トナシ廿二番ノ説ヲ可トスル者ヲ起立セシム

起立者十七人

○議長 多數ヲ以テ廿二番ノ修正ニ決シ第二讀會ハ既ニ畢リタル旨

ヲ告ク

○番一 保村 田 引續キ第三讀會ヲ開カンコトヲ請求ス

○議長 委員ノ請求ニ應シ第三讀會ヲ開クヲ可トスル者ヲ起立セシム

起立者十九人

○議長 多數ヲ以テ第三讀會ヲ開クニ決シタル旨ヲ告ク

○書記官 戸田 秋成 左ノ議按ヲ朗讀ス

違式註違條例中改正ノ儀布告案

違式註違條例中贖金ヲ科料ト改メ同條例第三條左ノ通改正候條此旨布告候事

第三條 違式註違ノ罪ヲ犯シ資力ナキ者及ヒ科料ヲ出スヲ肯ンセサル者ハ拘留ニ處スルヲ左ノ如シ

違式 拘留 五日ヨリ少カラス 十日ヨリ多カラス

註違 拘留 半日ヨリ少カラス 四日ヨリ多カラス

○議長 發議ナキヲ認メ確定ノ決ヲ取ル可シト告ケ本案ヲ可トスル者ヲ起立セシム

起立者十八人

○議長 多數ヲ以テ本案ニ確定シタル旨ヲ告ケ解散セシム 午前第十時四十分閉場

元老院會議筆記明治十一年十月十日

○第百十五號議案 明治十年第七十九號第一讀會第二讀會及第三

讀會

議長 河野敏鎌 代理

出席議員

- 一番 黒田 清綱
- 二番 秋月 種樹
- 三番 水本 成美
- 六番 岩下 方平
- 八番 伊丹 重賢
- 九番 大給 恒

- 十番 中島 信行
- 十二番 大久保一翁
- 十三番 東久世通禧
- 十四番 田中不二磨
- 十五番 柳原 前光
- 十六番 河田 景與
- 十九番 伊集院兼寛
- 二十番 津田 出
- 廿二番 細川潤次郎
- 廿三番 楠田 英世
- 廿六番 齋藤 利行

内閣委員一番外 太政官少書記官 股野 琢

廿七番 津田 真道

午前第十時開場

○議長 本日第百十五號議案ノ第一讀會ヲ開クニ依リ例ニ遵ヒ發議
ス可シト演フ

○書記官島田三郎 左ノ議案ヲ朗讀ス

布告按

明治十年十一月第七拾九號布告中左ノ通追加候條此旨布告候事

第五條 營業稅并釀造稅未納ノ者徵收期限ニ至リシ翌日ヨリハ該
製造品及器物ハ官廳ニ於テ差押ヘルコトヲ得

第六條 財産公賣ノ際買請望人無之節該財産ハ之ヲ官沒スヘシ

○外一番股野 明治十年第七十九號ノ布告ニ追加ヲ要スル主旨ハ之

ヲ精詳ニ辨明セサルモ原法則ノ不完備ナルハ各議官ニ於テモ業ニ
己ニ瞭然詳知ナルヲ信スレハ今更喋々贅言ヲ要セスト雖モ其主要
ノ概畧ヲ陳セン國稅ノ完納ハ其徵收期限ノ後チ猶ヲ三十日ノ猶豫
ヲ與ヘ而シテ尙ヲ之ヲ完了スルヲ能サレハ其賦課スヘキ財産ヲ公
賣シテ徵收スルノ法ナリ然レトモ營業稅釀造稅ノ如キニ至テハ猶
豫期限三十日間ニ其財産ヲ沽却シ又ハ之ヲ隱蔽スル等ノ奸詐百出
其期ニ至リ遂ニ烏有トナリ之ヲ徵求スルニ由ナキニ至リ結局官府
ノ損失タルヲ免レス故ニ預メ其弊害ヲ防遏スルノ法ヲ設ケサル可
ラス是レ本案第五條ヲ追加スル所以ノ主眼ナリ又其財産ヲ公賣ス

ルニ方テ該鄰里鄉黨協同私和シテ之ヲ購得スル者ナシト詐稱シ隱
ニ原營業人ノ地ヲ爲ス者モ亦鮮シトセス原ト國稅ノ義務ヲ果サシ
ムル者ナレハ毫モ官府ノ損失トナスノ理ナシ此ヲ以テ之ヲ官沒ト
ナスノ法ヲ設ケサル可ラス是レ第六條ヲ追加スル所以ナリ前陳ノ
如キ事狀ヲ以テ各地方官ヨリ其處分方法ヲ續々主務ノ省廳ニ稟議
スル者踵ヲ接ス如此キ狀態ナレハ速ニ決議アラントヲ企望ス

○議長 發議ナキヲ以テ第一讀會ハ此ニ終リタル旨ヲ告ク

○外一番股野 向キニ第一讀會ニ方テ開陳セシ如ク各地方官モ其處
分ニ苦ムノ狀態アレハ急施ヲ欲スルハ必然ナリ本日引續キ第二讀
會ヲ開カレンコトヲ請求ス

○議長 委員ノ請求シタルヲ以テ本日引續キ第二讀會ヲ開クヲ可ト

スル者ヲ起立セシム

起立者十七人

○議長 多數ヲ以テ引續キ第二讀會ヲ開ク旨ヲ演述ス

○書記官 島田三郎 左ノ議案ヲ朗讀ス

布告按

明治十年^{十一月}第七拾九號布告中左ノ通追加候條此旨布告候事

第五條 營業稅并釀造稅未納ノ者徵收期限ニ至リシ翌日ヨリハ該製造品及器物ハ官廳ニ於テ差押ヘルコトヲ得

○議長 發議ナキヲ以テ本案ヲ可トスル者ヲ起立セシム

起立者十六人

○議長 多數ヲ以テ本案ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官 島田三郎 左ノ議案ヲ朗讀ス

第六條 財産公賣ノ際買請望人無之節該財産ハ之ヲ官沒スヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本案ヲ可トスル者ヲ起立セシム

起立者十六人

○議長 多數ヲ以テ本案ニ決シ第二讀會ハ既ニ終リタル旨ヲ告ク

○外一番 股野 前陳ノ如キ事情アレハ各議官暫時ノ煩勞ヲ惜マス引

續キ第三讀會ヲ開カレン事ヲ敢テ請求ス

○議長 委員ノ請求シタルヲ以テ引續キ第三讀會ヲ開ヲ可トスル者

ヲ起立セシム

起立者十七人

○議長 多數ナルヲ以テ引續キ第三讀會ヲ開クニ決シタル旨ヲ告ク
○書記官 島田三郎 左ノ議案ヲ朗讀ス

布告案

明治十年月十一 第七拾九號布告中左ノ通追加候條此旨布告候事

○第五條 營業稅并釀造稅未納ノ者徵收期限ニ至リシ翌日ヨリハ該
製造品及器物ハ官廳ニ於テ差押ヘルヲ得

○議長 發議ナキヲ以テ本案ヲ可トスル者ヲ起立セシム
起立者十六人

○議長 多數ヲ以テ本案ニ確定シ次條ニ移ラシム

○書記官 島田三郎 左ノ議案ヲ朗讀ス

第六條 財産公賣ノ際買請望人無之節該財産ハ之ヲ官沒スヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可トスル者ヲ起立セシム
起立者十六人

○議長 多數ヲ以テ本案ニ確定シ例規ニ依リ決議ノ旨ヲ上奏ス可シ
ト告ケ解散セシム

午前第十時三十分閉場

元老院會議筆記明治十一年十一月十一日

○第一百十六號議案 貿易銀新貨鑄造ヲ止メ舊貨再鑄發行ノ儀布告案 第一讀會

議長 有栖川 熾仁

出席議員

- | | |
|----|-------|
| 一番 | 大久保一翁 |
| 四番 | 岩下方平 |
| 六番 | 細川潤次郎 |
| 七番 | 田中不二麿 |
| 八番 | 秋月種樹 |
| 九番 | 黑田清綱 |
| 十番 | 伊丹重賢 |

十二番	津田 出
十三番	山田 顯義
十四番	中島 信行
十五番	前島 密
十六番	津田 眞道
十七番	宍戸 璣
十九番	水本 成美
二十番	柳原 前光
二十一番	伊集院兼寛
二十二番	東久世通禧
二十四番	福羽 美靜

二十五番 山口 尙芳
 二十七番 河田 景與
 午前第十時二十分開場
 内閣委員番外一番 太政官權少書記官光田 三郎

○議長 本日ハ第百十六號議案第一讀會ヲ開ク旨ヲ演述ス

○書記官戸田秋成 左ノ議案ヲ朗讀ス

布告案

明治八年二月第三拾五號布告貿易銀増量圖畫改正ノ分ノ鑄造ヲ見合セ同七年三月第三拾四號布告貿易壹圓銀圖畫改正ノ分ヲ再鑄發行候條此旨布告候事
 ○外一番光田三郎 本案起草ノ理由ヲ概陳ス可シ始メ鑄造セシ貿易一圓銀ハ墨西哥銀ヲ模倣セシモノニシテ其量目四百十六グレインナリ